

# 原子力施設環境放射線調査報告書 データ集(案)

(平成30年度第2四半期報)

青 森 県

# 目 次

〔原子燃料サイクル施設〕

1. 青森県実施分測定結果	3
(1) 空間放射線量率測定結果	4
① モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果	4
(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	5
② モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果	6
③ モニタリングカーによる空間放射線量率(NaI)測定結果	7
(2) 積算線量測定結果(RPLD)	8
(3) 大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果	9
(4) 大気中の気体状 $\beta$ 放射能測定結果(クリプトン-85換算)	10
(5) 大気中のヨウ素-131測定結果	11
(6) 環境試料中の放射能測定結果	12
(7) 大気中の水蒸気状トリチウム測定結果	14
(8) 大気中の気体状フッ素測定結果	15
(9) 環境試料中のフッ素測定結果	15
(10) 気象観測結果	16
① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深	16
② 大気安定度出現頻度表	17
③ 風配図	18
2. 事業者実施分測定結果	19
(1) 空間放射線量率測定結果	20
① モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果	20
(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	21
(2) 積算線量測定結果(RPLD)	22
(3) 大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果	23
(4) 大気中の気体状 $\beta$ 放射能測定結果(クリプトン-85換算)	24
(5) 大気中のヨウ素-131測定結果	25
(6) 環境試料中の放射能測定結果	26
(7) 大気中の水蒸気状トリチウム測定結果	28
(8) 大気中の気体状フッ素測定結果	29
(9) 環境試料中のフッ素測定結果	30
(10) 気象観測結果	31
① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深	31
② 大気安定度出現頻度表	32
③ 風配図	33
3. 放射能濃度の推移	35

[東通原子力発電所]

1. 青森県実施分測定結果	41
(1) 空間放射線量率測定結果	42
①モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果	42
(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	43
②モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果	44
(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	45
③モニタリングカーによる空間放射線量率(NaI)測定結果	46
(2) 積算線量測定結果(RPLD)	47
(3) 大気浮遊じん中の全β放射能測定結果	48
(4) 大気中のヨウ素-131測定結果	48
(5) 環境試料中の放射能測定結果	50
(6) 気象観測結果	52
①風速・気温・湿度・降水量・積雪深	52
②大気安定度出現頻度表	54
③風配図	55
2. 事業者実施分測定結果	57
(1) 空間放射線量率測定結果	58
①モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果	58
(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	59
(2) 積算線量測定結果(RPLD)	60
(3) 環境試料中の放射能測定結果	62
(4) 気象観測結果	64
①降水量・積雪深	64
3. 放射能濃度の推移	65

[リサイクル燃料備蓄センター]

1. 青森県実施分測定結果	69
(1) 空間放射線量率測定結果	70
①モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果	70
(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	70
(2) 積算線量測定結果(RPLD)	71
(3) 環境試料中の放射能測定結果	71
(4) 気象観測結果	71
①降水量・積雪深	71
2. 事業者実施分測定結果	73
(1) 空間放射線量率測定結果	74
①モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果	74
(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	74
(2) 積算線量測定結果(RPLD)	75
(3) 環境試料中の放射能測定結果	75
(4) 気象観測結果	75
①降水量・積雪深	75
3. 放射能濃度の推移	77

周辺監視区域内測定結果(原子燃料サイクル施設) .....	79
1. モニタリングポスト測定結果 .....	81
(1) 再処理事業所モニタリングポスト測定結果 .....	81
(2) 濃縮・埋設事業所モニタリングポスト測定結果 .....	83
2. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果 .....	84
3. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果 .....	85
4. 気象観測結果 .....	87
周辺監視区域内測定結果(東通原子力発電所) .....	89
1. モニタリングポスト測定結果 .....	90
2. 排気筒モニタ測定結果 .....	91
3. 放水口モニタ測定結果 .....	91
4. 気象観測結果 .....	92

### 記号の解説

「ND」

定量下限値未満を示す。分析室等で実施する環境試料中放射性核種の分析測定については、測定条件や精度を一定の水準に保つため、試料・核種毎に定量下限値を定めている。

「\*」

検出限界以下を示す。モニタリングステーションにおいて自動的に採取・測定している大気浮遊じん中の全アルファ及び全ベータ放射能については、測定条件（採取空気量等）が変動するため、測定値が計数誤差の3倍以下の場合を検出限界以下としている。

「—」

モニタリング対象外を示す。

「△」

今四半期分析対象外を示す。

### 核種等の記号及び名称

$^3\text{H}$ , H-3	: トリチウム	$^{144}\text{Ce}$ , Ce-144	: セリウム-144
$^7\text{Be}$ , Be-7	: ベリリウム-7	$^{154}\text{Eu}$ , Eu-154	: ユロピウム-154
$^{14}\text{C}$ , C-14	: 炭素-14	$^{214}\text{Bi}$ , Bi-214	: ビスマス-214
$^{40}\text{K}$ , K-40	: カリウム-40	$^{228}\text{Ac}$ , Ac-228	: アクチニウム-228
$^{51}\text{Cr}$ , Cr-51	: クロム-51	U	: ウラン
$^{54}\text{Mn}$ , Mn-54	: マンガン-54	$^{234}\text{U}$ , U-234	: ウラン-234
$^{59}\text{Fe}$ , Fe-59	: 鉄-59	$^{235}\text{U}$ , U-235	: ウラン-235
$^{58}\text{Co}$ , Co-58	: コバルト-58	$^{238}\text{U}$ , U-238	: ウラン-238
$^{60}\text{Co}$ , Co-60	: コバルト-60	$^{238}\text{Pu}$ , Pu-238	: プルトニウム-238
$^{65}\text{Zn}$ , Zn-65	: 亜鉛-65	$^{239+240}\text{Pu}$ , Pu-239+240	: プルトニウム-239+240
$^{85}\text{Kr}$ , Kr-85	: クリプトン-85	$^{241}\text{Pu}$ , Pu-241	: プルトニウム-241
$^{90}\text{Sr}$ , Sr-90	: スロンチウム-90	$^{241}\text{Am}$ , Am-241	: アメリシウム-241
$^{95}\text{Zr}$ , Zr-95	: ジルコニウム-95	$^{244}\text{Cm}$ , Cm-244	: キュリウム-244
$^{95}\text{Nb}$ , Nb-95	: ニオブ-95		
$^{103}\text{Ru}$ , Ru-103	: ルテニウム-103	Pu( $\alpha$ )	: アルファ線を放出する プルトニウム
$^{106}\text{Ru}$ , Ru-106	: ルテニウム-106	Am( $\alpha$ )	: アルファ線を放出する アメリシウム
$^{125}\text{Sb}$ , Sb-125	: アンチモン-125	Cm( $\alpha$ )	: アルファ線を放出する キュリウム
$^{129}\text{I}$ , I-129	: ヨウ素-129		
$^{131}\text{I}$ , I-131	: ヨウ素-131		
$^{134}\text{Cs}$ , Cs-134	: セシウム-134		
$^{137}\text{Cs}$ , Cs-137	: セシウム-137		
$^{140}\text{Ba}$ , Ba-140	: バリウム-140		
$^{140}\text{La}$ , La-140	: ランタン-140		
		F	: フッ素



# 原子燃料サイクル施設





## 1. 青森県実施分測定結果

(1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
尾 駁	7月	23	42	21	2.4	1	0	1	5~39 (22±17)	8~141	21~65 (24)	
	8月	23	79	21	4.8	8	0	8				
	9月	23	43	21	3.2	3	0	3				
	第2四半期	23	79	21	3.6	12	0	12				
千歳平	7月	24	39	22	2.5	6	0	6	10~36 (23±13)	12~88	21~88 (24)	
	8月	24	63	22	3.9	14	0	14				
	9月	24	46	22	3.2	14	0	14				
	第2四半期	24	63	22	3.3	34	0	34				
平 沼	7月	21	37	19	2.4	8	0	8	9~33 (21±12)	12~67	19~46 (21)	
	8月	22	68	19	4.3	15	0	15				
	9月	21	42	19	2.7	8	0	8				
	第2四半期	21	68	19	3.3	31	0	31				
泊	7月	22	42	20	2.8	5	0	5	5~37 (21±16)	9~130	19~56 (22)	
	8月	22	69	20	5.4	22	0	22				
	9月	22	43	20	3.5	10	0	10				
	第2四半期	22	69	20	4.1	37	0	37				
吹 越	7月	23	39	21	2.0	7	0	7	12~34 (23±11)	14~93	21~57 (23)	
	8月	23	52	21	3.1	11	0	11				
	9月	23	40	22	2.6	7	0	7				
	第2四半期	23	52	21	2.6	25	0	25				
比較 対 照 (青森)	7月	28	69	26	3.7	12	0	12	14~40 (27±13)	14~81	26~79 (28)	
	8月	28	54	26	2.4	7	0	7				
	9月	28	39	26	1.5	0	0	0				
	第2四半期	28	69	26	2.7	19	0	19				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、過去の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成25~29年度の測定値の「最小値~最大値」。  
ただし、平沼局及び泊局については平成27~29年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、過去の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
尾 駁	7月	61	78	57	2.3	
	8月	61	110	58	4.3	
	9月	62	78	58	2.8	
	第2四半期	61	110	57	3.3	
千 歳 平	7月	66	79	63	2.3	
	8月	66	101	63	3.6	
	9月	66	86	63	3.0	
	第2四半期	66	101	63	3.0	
平 沼	7月	62	77	59	2.2	
	8月	63	103	60	3.8	
	9月	63	80	60	2.3	
	第2四半期	63	103	59	2.9	
泊	7月	61	79	58	2.6	
	8月	62	104	57	4.9	
	9月	61	79	58	3.2	
	第2四半期	61	104	57	3.7	
吹 越	7月	62	75	59	1.9	
	8月	62	87	59	2.8	
	9月	62	77	59	2.3	
	第2四半期	62	87	59	2.4	

・測定値は1時間値。

・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

②モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
横浜町役場	7月	21	35	20	1.8	4	0	4	12~32 (22±10)	17~95	20~54 (22)	
	8月	21	45	19	2.8	10	0	10				
	9月	20	33	18	2.1	1	0	1				
	第2四半期	21	45	18	2.3	15	0	15				
野辺地	7月	32	47	30	1.6	4	0	4	23~41 (32±9)	24~83	30~61 (32)	
	8月	32	50	30	1.9	6	0	6				
	9月	32	43	30	1.5	2	0	2				
	第2四半期	32	50	30	1.7	12	0	12				
砂子又	7月	21	34	20	1.8	0	0	0	8~34 (21±13)	10~93	20~68 (22)	
	8月	22	47	20	4.3	27	0	27				
	9月	22	59	20	3.5	16	0	16				
	第2四半期	22	59	20	3.4	43	0	43				
東北町役場	7月	20	45	18	3.0	17	0	17	9~31 (20±11)	12~77	15~77 (20)	
	8月	21	54	17	3.6	19	0	19				
	9月	21	39	18	3.0	16	0	16				
	第2四半期	21	54	17	3.2	52	0	52				
東北分庁舎	7月	21	43	18	3.3	22	0	22	9~31 (20±11)	12~86	16~86 (20)	
	8月	21	57	18	3.9	21	0	21				
	9月	21	39	18	3.2	21	0	21				
	第2四半期	21	57	18	3.5	64	0	64				
三沢市役所	7月	21	41	18	2.8	18	0	18	12~30 (21±9)	13~71	18~71 (21)	
	8月	22	60	18	3.6	20	0	20				
	9月	22	42	19	3.2	26	0	26				
	第2四半期	21	60	18	3.2	64	0	64				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、過去の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成25~29年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、過去の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。
- また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

③モニタリングカーによる空間放射線量率(NaI)測定結果

ア 定点測定

測定地点		測定年月日	測定値 (nGy/h)	積雪深 (cm)	備考
六ヶ所村	石川	H30.9.3	17	0	
	出戸	〃	14	0	
	老部川	〃	13	0	
	尾駸	H30.9.6	16	0	
	沖付	H30.8.10	13	0	
	新納屋	〃	13	0	
	新栄	〃	16	0	
	市柳沼東畔	H30.8.21	16	0	
	八森	〃	18	0	
	六原	H30.9.3	16	0	
	笹崎	〃	21	0	
	千歳平	H30.8.23	20	0	
	豊原	H30.8.10	17	0	
	千樽	〃	17	0	
	尾駸沼南畔	〃	19	0	
弥栄平	〃	20	0		
清掃センター	H30.8.23	18	0		
富ノ沢	H30.9.6	20	0		
横浜町	第一明神平	〃	19	0	
	第二明神平	〃	14	0	
	はまなす公園	H30.8.23	13	0	
野辺地町	上目ノ越	H30.8.10	18	0	
	北砂沼	H30.9.6	14	0	
青森市	比較対照 (青森市)	H30.9.5	20	0	

- ・測定値は10分値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

イ 走行測定

走行ルート	測定年月日	測定値の範囲 (nGy/h)	備考
ルートA(千歳～平沼)	H30.9.12	15 ～ 21	
ルートB(平沼～石川)	〃	12 ～ 19	
ルートC(猿子沢～新納屋)	〃	12 ～ 25	
ルートD(尾駸～中吹越)	〃	13 ～ 22	
ルートE(中吹越～目ノ越)	〃	12 ～ 17	
ルートF(目ノ越～室ノ久保)	〃	14 ～ 20	
ルートG(二又～上弥栄)	〃	14 ～ 19	
ルートH(森の踏切～沖付)	〃	13 ～ 22	
ルートI(弥栄平～千歳)	〃	15 ～ 22	

- ・測定値は500 m毎の平均値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

## (2) 積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3か月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
六ヶ所村	尾 駱	H30.6.27~H30.9.27 (92)	98	79 ~ 104	
	千 歳 平	〃	100	83 ~ 106	
	平 沼	〃	96	86 ~ 103	
	泊	〃	96	84 ~ 99	
	出 戸	〃	85	73 ~ 88	
	老 部 川	〃	94	82 ~ 95	
	富 ノ 沢	〃	103	83 ~ 105	
	二 又	〃	95	87 ~ 98	
	むつ小川原石油備蓄	〃	96	81 ~ 98	
	室 ノ 久 保	〃	97	80 ~ 100	
六 原	〃	103	93 ~ 107		
倉 内	〃	94	84 ~ 95		
横 浜 町	吹 越	〃	94	84 ~ 94	
	明 神 平	〃	112	86 ~ 117	
	横 浜 町 役 場	〃	102	94 ~ 105	
野 辺 地 町	有 戸	〃	104	96 ~ 110	
	野 辺 地	〃	109	99 ~ 112	
東 通 村	白 糠	〃	99	89 ~ 102	
東 北 町	西 公 園 ( 東 北 分 庁 舎 )	〃	91	79 ~ 91	
	水 喰	〃	96	78 ~ 98	
	淋 代	〃	102	78 ~ 104	
	東 北 町 役 場	〃	97	86 ~ 99	
三 沢 市	三 沢 市 役 所	〃	110	98 ~ 111	
青 森 市	比 較 対 照 ( 青 森 市 )	〃	106	89 ~ 110	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日当たりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成25~29年度の3か月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。  
ただし、平沼及び泊については平成27~29年度、老部川については平成28年度第3四半期~平成29年度、倉内については平成29年度の3か月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。

(3) 大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	全 $\alpha$			全 $\beta$			備考
			平均	最大	最小	平均	最大	最小	
尾 駁	H30. 7. 2~H30. 7.30	4	< 0.021	0.028	*	0.27	0.44	0.12	
	H30. 7.30~H30. 9. 3	5	< 0.036	0.069	*	0.34	0.46	0.26	
	H30. 9. 3~H30.10. 1	4	0.043	0.071	0.018	0.64	0.74	0.59	
	第 2 四 半 期	13	< 0.034	0.071	*	0.4	0.74	0.12	
千 歳 平	H30. 7. 2~H30. 7.30	4	0.026	0.031	0.019	< 0.27	0.40	*	
	H30. 7.30~H30. 9. 3	5	0.029	0.041	0.017	0.35	0.52	0.21	
	H30. 9. 3~H30.10. 1	4	0.040	0.053	0.017	0.67	0.78	0.60	
	第 2 四 半 期	13	0.032	0.053	0.017	< 0.42	0.78	*	
平 沼	H30. 7. 2~H30. 7.30	4	< 0.024	0.033	*	0.25	0.40	0.11	
	H30. 7.30~H30. 9. 3	5	< 0.029	0.048	*	0.30	0.43	0.20	
	H30. 9. 3~H30.10. 1	4	0.063	0.11	0.038	0.62	0.73	0.53	
	第 2 四 半 期	13	< 0.038	0.11	*	0.39	0.73	0.11	
泊	H30. 7. 2~H30. 7.30	4	< 0.021	0.036	*	< 0.28	0.42	*	
	H30. 7.30~H30. 9. 3	5	< 0.025	0.035	*	0.33	0.45	0.24	
	H30. 9. 3~H30.10. 1	4	0.038	0.058	0.021	0.61	0.66	0.55	
	第 2 四 半 期	13	< 0.028	0.058	*	< 0.40	0.66	*	
吹 越	H30. 7. 2~H30. 7.30	4	< 0.025	0.036	*	0.32	0.44	0.15	
	H30. 7.30~H30. 9. 3	4※	< 0.036	0.056	*	0.29	0.46	0.15	
	H30. 9. 3~H30.10. 1	4	0.041	0.067	0.028	0.59	0.70	0.51	
	第 2 四 半 期	12	< 0.034	0.067	*	0.40	0.70	0.15	
比較対照 (青森)	H30. 7. 2~H30. 7.30	4	0.025	0.033	0.015	< 0.29	0.45	*	
	H30. 7.30~H30. 9. 3	5	0.027	0.036	0.013	0.34	0.46	0.27	
	H30. 9. 3~H30.10. 1	4	0.041	0.061	0.030	0.69	0.75	0.64	
	第 2 四 半 期	13	0.030	0.061	0.013	< 0.44	0.75	*	

・168時間集じん終了後72時間放置、1時間測定。

・平均値の算出においては測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、その時の検出限界値を測定値として算出し平均値に「<」を付ける。すべての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「\*」と表示する。

※:吹越局については、機器の不具合により測定が適切に行われなかった期間(平成30年8月13日~平成30年8月20日)があったため、当該期間の測定結果は参考値とする(平成30年度第2四半期報付1参照)。第2四半期の平均、最大及び最小に、参考値は含まれていない。

## (4) 大気中の気体状β放射能測定結果(クリプトン-85換算)

(単位:kBq/m<sup>3</sup>)

測定局	測定月	平均	最大	最小	備考
尾 駁	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	
千 歳 平	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	
平 沼	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	
泊	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	
吹 越	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	
比較対照 (青森)	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「く」を付ける。また、すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし、「ND」と表示する。



## (5)大気中のヨウ素-131測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
尾 駁	H30. 7. 2 ~ H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30 ~ H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3 ~ H30.10. 2	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	
千 歳 平	H30. 7. 2 ~ H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30 ~ H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3 ~ H30.10. 2	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	
平 沼	H30. 7. 2 ~ H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30 ~ H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3 ~ H30.10. 2	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	
泊	H30. 7. 2 ~ H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30 ~ H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3 ~ H30.10. 2	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	
吹 越	H30. 7. 2 ~ H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30 ~ H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3 ~ H30.10. 2	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	
比較対照 (青 森)	H30. 7. 2 ~ H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30 ~ H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3 ~ H30.10. 2	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	

・測定値は試料採取日に補正した値。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。また、すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし、「ND」と表示する。

(6)環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機 器 分 析										
				<sup>54</sup> Mn	<sup>60</sup> Co	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	
大気浮遊じん	尾 駁	H30.7.2~ H30.10.1	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.0	ND	—	—	
	千 歳 平	H30.7.2~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.1	ND	—	—	
	平 沼	H30.7.2~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.9	ND	—	—	
	泊	H30.7.2~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.9	ND	—	—	
	横 浜 町	H30.7.2~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.0	ND	—	—	
	比較対照 (青森市)	H30.7.2~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.1	ND	—	—	
雨 水	千 歳 平	H30.6.29~ H30.7.31	Bq/ℓ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		H30.7.31~ H30.8.31		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		H30.8.31~ H30.9.28		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
降 下 物	千 歳 平	H30.6.29~ H30.7.31	Bq/m <sup>2</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	110	ND	—	—	
		H30.7.31~ H30.8.31		ND	ND	ND	ND	ND	ND	250	ND	—	—	
		H30.8.31~ H30.9.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	290	ND	—	—	
湖 沼 水	尾 駁 沼	H30.7.23	mBq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
水 道 水	尾 駁	H30.7.6		トリチウム については Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	
井 戸 水	尾 駁	H30.7.6		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	180	—	—	
表 土	尾 駁	H30.7.20	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	140	ND	ND	
	千 歳 平	H30.7.20		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	190	ND	ND	
	横 浜 町	H30.7.19		ND	ND	ND	ND	13	ND	ND	340	22	33	
	比較対照 (青森市)	H30.7.27		ND	ND	ND	ND	5	ND	ND	260	17	25	
牛 (原乳)	庄 内	H30.7.9	Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	49	—	—	
	横 浜 町	H30.7.19		<sup>14</sup> Cに ついては 上:Bq/ℓ 下:Bq/g炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	52	—	—
	東 北 町	H30.7.9		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	50	—	—
牧 草	第3団地	H30.7.27	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	12	170	—	—	
	横 浜 町	H30.8.7		ND	ND	ND	ND	1.0	ND	57	95	—	—	
貝 (ホタテ)	陸奥湾	H30.7.19		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	86	—	—	

・Uは、<sup>234</sup>U、<sup>235</sup>U及び<sup>238</sup>Uの合計。

・機器分析によるγ線放出核種、<sup>3</sup>H及び<sup>90</sup>Srの測定値は試料採取日に補正した値。

・ホタテ(陸奥湾)は東通原子力発電所環境放射線調査の試料を兼ねる。

放射化学分析									備考
<sup>3</sup> H	<sup>14</sup> C	<sup>90</sup> Sr	<sup>129</sup> I	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	U	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	ND	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	ND	
ND	—	—	—	—	—	—	—	—	
ND	—	—	—	—	—	—	—	—	
ND	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ND	—	ND	—	—	—	—	—	—	塩分 18 (海水の塩分は約35)
ND	—	ND	—	—	—	—	—	—	
ND	—	ND	—	—	—	—	—	—	
—	—	0.6	ND	ND	0.04	ND	ND	4.3	
—	—	ND	ND	ND	0.09	0.05	ND	14	
—	—	0.7	ND	ND	0.53	0.17	ND	92	
—	—	0.9	ND	ND	0.12	ND	ND	32	
—	—	ND	—	—	—	—	—	ND	
—	15	ND	—	—	—	—	—	—	
—	0.23	ND	—	—	—	—	—	—	
—	—	0.06	—	ND	ND	—	—	ND	チモシー、リードカナリー、オーチャードグラス (2番草)
—	—	0.35	—	ND	ND	—	—	ND	チモシー、リードカナリー、オーチャードグラス (2番草)
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	

(7)大気中の水蒸気状トリチウム測定結果

測定地点	採取期間	測定値		大気中水分量 (g/m <sup>3</sup> )	備考
		大気中濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	水分中濃度 (Bq/l)		
尾 駁	H30. 6.29 ~ H30. 7.31	ND	ND	15	
	H30. 7.31 ~ H30. 8.31	ND	ND	15	
	H30. 8.31 ~ H30. 9.28	ND	ND	13	
横 浜 町	H30. 6.29 ~ H30. 7.31	ND	ND	16	
	H30. 7.31 ~ H30. 8.31	ND	ND	15	
	H30. 8.31 ~ H30. 9.28	ND	ND	13	
比較対照 (青森市)	H30. 6.29 ~ H30. 7.31	ND	ND	16	
	H30. 7.31 ~ H30. 8.31	ND	ND	15	
	H30. 8.31 ~ H30. 9.28	ND	ND	12	

・測定値は試料採取日に補正した値。

## (8) 大気中の気体状フッ素測定結果

(単位:ppb)

測定局	測定月	平均	最大	最小	備考
尾 駁	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	
比較対照 (青森)	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	

## (9) 環境試料中のフッ素測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	測定値	備考
大 気	尾 駁	H30. 7. 6～ H30. 7.13	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	ND	
	比較対照 (青森市)	H30. 7. 6～ H30. 7.13		ND	
湖 沼 水	尾 駁 沼	H30. 7.23	mg/ℓ	0.6	塩分 18 (海水の塩分は約35)
牛 乳 (原 乳)	庄 内	H30. 7. 9		ND	
牧 草	第 3 団 地	H30. 7.27	mg/kg生	ND	チモシー、リードカナリー、オー チャートグラス(2番草)

・「大気」の測定値は粒子状フッ素及び気体状フッ素の合計。

(10) 気象観測結果

① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(℃)			湿度(%)		降水量(mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
尾 駁	7月	2.2	8.7	19.9	30.6	11.8	94	62	151.0	0	0	0	0	0
	8月	2.4	10.1	20.8	33.0	10.8	90	52	293.0	0	0	0	0	0
	9月	2.0	8.0	18.9	29.4	9.6	85	39	138.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	2.2	10.1	19.9	33.0	9.6	90	39	582.0	0	0	0	0	0
千 歳 平	7月	2.4	6.8	20.5	32.0	11.7	84	43	156.0	0	0	0	0	0
	8月	2.5	6.8	21.0	33.0	11.6	81	39	308.5	0	0	0	0	0
	9月	2.2	10.0	18.9	29.0	11.9	78	25	168.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	2.4	10.0	20.2	33.0	11.6	81	25	632.5	0	0	0	0	0
平 沼	7月	—	—	—	—	—	—	—	165.0	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	253.5	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	152.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	570.5	0	0	0	0	0
泊	7月	—	—	—	—	—	—	—	228.5	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	434.5	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	158.5	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	821.5	0	0	0	0	0
吹 越	7月	—	—	—	—	—	—	—	118.5	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	249.5	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	142.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	510.0	0	0	0	0	0
比 較 対 照 (青森)	7月	—	—	—	—	—	—	—	179.5	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	169.0	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	94.5	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	443.0	0	0	0	0	0

・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。

・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成25～29年度)の同一時期の平均値及び最大値。ただし、平沼局及び泊局については、平成26年度に設置場所の移動を行ったことから、平成27～29年度の同一時期の平均値及び最大値。

②大気安定度出現頻度表

単位:時間(括弧内は%)

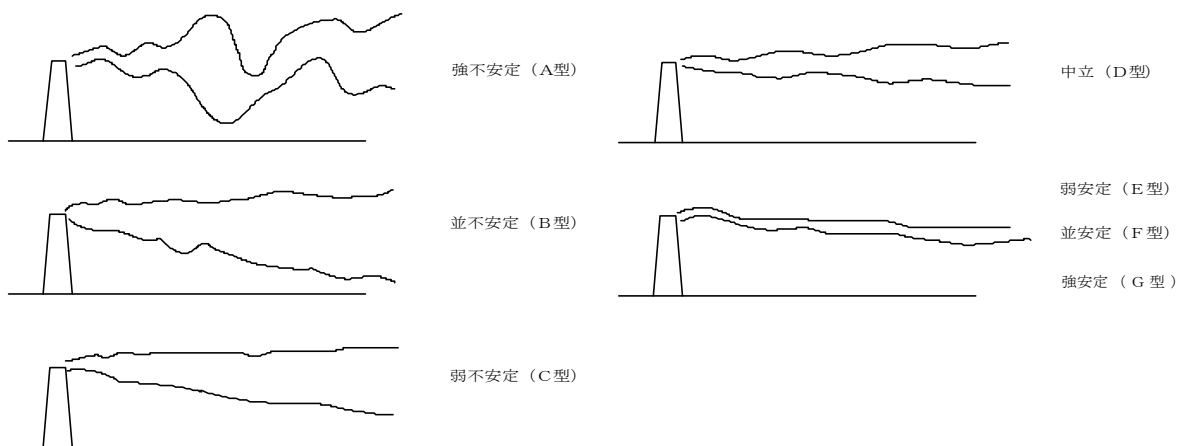
測定局	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
尾 駁	7月	26 (3.5)	54 (7.3)	78 (10.5)	6 (0.8)	65 (8.7)	15 (2.0)	434 (58.3)	14 (1.9)	7 (0.9)	45 (6.0)	744 (100)	
	8月	8 (1.1)	42 (5.6)	75 (10.1)	25 (3.4)	55 (7.4)	13 (1.7)	398 (53.5)	19 (2.6)	12 (1.6)	97 (13.0)	744 (100)	
	9月	12 (1.7)	58 (8.1)	55 (7.6)	12 (1.7)	42 (5.8)	16 (2.2)	304 (42.2)	30 (4.2)	13 (1.8)	178 (24.7)	720 (100)	
	第2 四半期	46 (2.1)	154 (7.0)	208 (9.4)	43 (1.9)	162 (7.3)	44 (2.0)	1,136 (51.4)	63 (2.9)	32 (1.4)	320 (14.5)	2,208 (100)	
千歳平	7月	16 (2.2)	40 (5.4)	87 (11.7)	14 (1.9)	50 (6.7)	23 (3.1)	468 (63.0)	8 (1.1)	4 (0.5)	33 (4.4)	743 (100)	
	8月	13 (1.7)	36 (4.8)	69 (9.3)	21 (2.8)	54 (7.3)	16 (2.2)	436 (58.7)	14 (1.9)	4 (0.5)	80 (10.8)	743 (100)	
	9月	12 (1.7)	37 (5.1)	56 (7.8)	15 (2.1)	53 (7.4)	21 (2.9)	391 (54.4)	12 (1.7)	19 (2.6)	103 (14.3)	719 (100)	
	第2 四半期	41 (1.9)	113 (5.1)	212 (9.6)	50 (2.3)	157 (7.1)	60 (2.7)	1,295 (58.7)	34 (1.5)	27 (1.2)	216 (9.8)	2,205 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

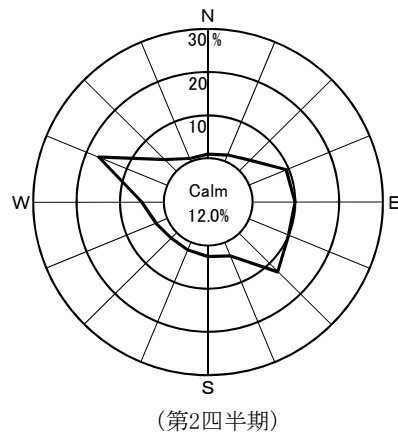
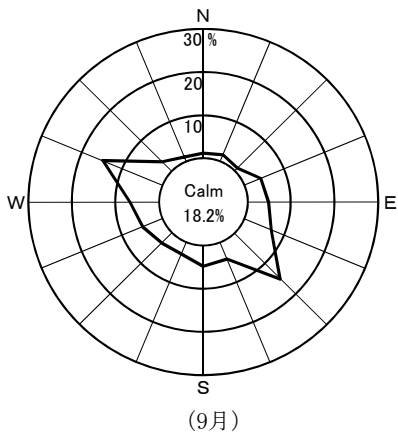
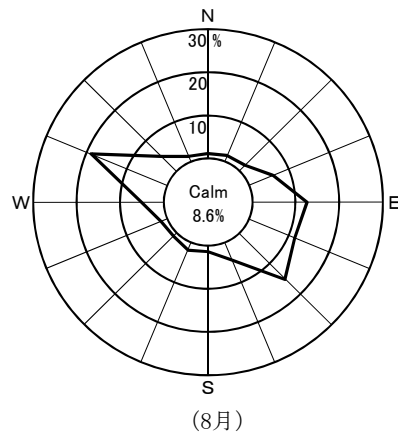
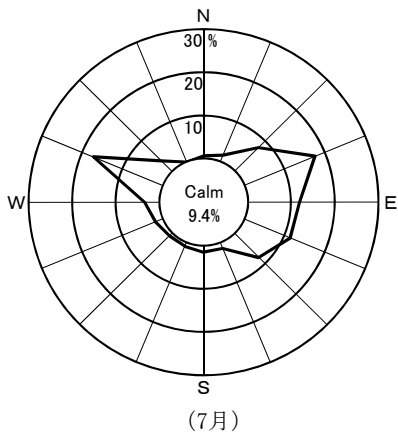
風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.020 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (平成13年3月 原子力安全委員会)

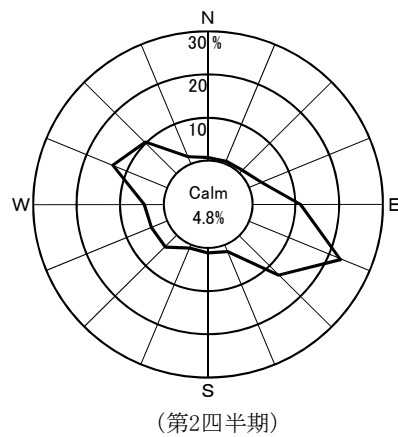
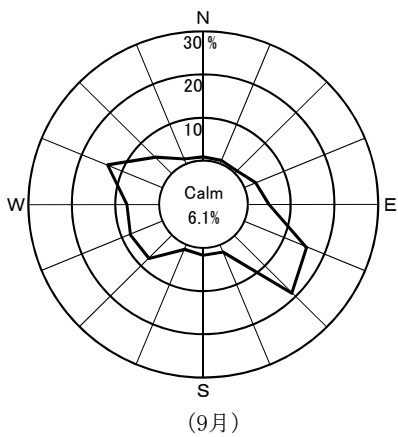
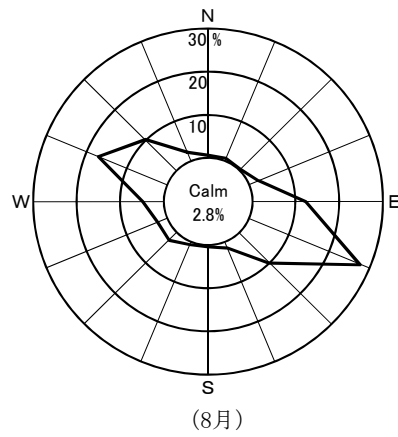
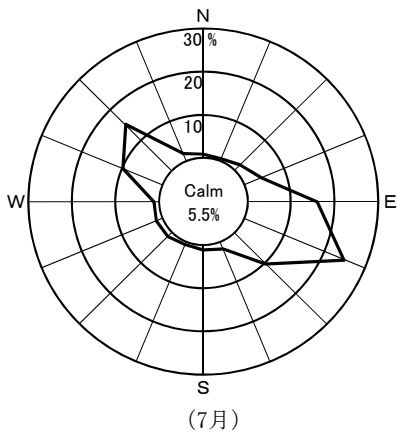


大気安定度と煙の型との模式図

③ 風配図  
尾 駁



千歳平



Calm: 風速0.4 m/sec以下



## 2. 事業者実施分測定結果

(1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数(単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数(単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
老部川	7月	20	34	19	2.0	4	0	4	8~32 (20±12)	10~114	18~55 (20)	
	8月	21	66	19	4.3	17	0	17				
	9月	21	37	19	2.7	10	0	10				
	第2四半期	21	66	19	3.2	31	0	31				
二又	7月	22	40	20	2.3	3	0	3	7~35 (21±14)	10~133	20~60 (22)	
	8月	23	64	21	4.6	19	0	19				
	9月	23	43	21	3.3	14	0	14				
	第2四半期	23	64	20	3.6	36	0	36				
室ノ久保	7月	21	38	19	2.1	5	0	5	10~32 (21±11)	12~73	19~53 (22)	
	8月	22	54	20	3.2	13	0	13				
	9月	22	40	20	2.6	13	0	13				
	第2四半期	22	54	19	2.7	31	0	31				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値」の範囲は、平成25~29年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値」の範囲は、「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。
- また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

## (参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
老部川	7月	55	69	51	2.3	
	8月	55	100	50	4.5	
	9月	55	71	51	2.7	
	第2四半期	55	100	50	3.3	
二又	7月	55	72	51	2.4	
	8月	55	94	50	4.4	
	9月	56	73	52	3.0	
	第2四半期	55	94	50	3.5	
室ノ久保	7月	53	67	49	2.2	
	8月	53	83	48	3.3	
	9月	53	69	50	2.5	
	第2四半期	53	83	48	2.8	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

(2)積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間 (日数)	3か月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
六ヶ所村	老 部 川	H30. 6.27～H30. 9.27 (92)	85	77 ～ 95	
	二 又	〃	91	79 ～ 103	
	室 ノ 久 保	〃	87	78 ～ 102	
	石 川	〃	95	82 ～ 109	
	新 町	〃	103	85 ～ 117	
	大 石 平	〃	100	80 ～ 114	
	富 ノ 沢	〃	93	80 ～ 108	
	雲 雀 平	〃	93	86 ～ 107	
	むつ小川原石油備蓄	〃	90	79 ～ 99	
	千 樽	〃	91	77 ～ 105	
	豊 原	〃	92	74 ～ 109	
	千 歳 平	〃	89	80 ～ 95	
六 原	〃	97	90 ～ 114		

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
  - ・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日当たりに換算し整数で示した値。
  - ・「平常の変動幅」は平成25～29年度の3か月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。
- ただし、千歳平については、平成26年度第2四半期～平成29年度の3か月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。

(3)大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	全 $\alpha$			全 $\beta$			備考
			平均	最大	最小	平均	最大	最小	
老部川	H30.7.2~H30.7.30	4	< 0.023	0.026	*	< 0.20	0.27	*	
	H30.7.30~H30.9.3	5	< 0.026	0.038	*	0.19	0.24	0.15	
	H30.9.3~H30.10.1	4	< 0.038	0.050	*	0.36	0.39	0.32	
	第2四半期	13	< 0.029	0.050	*	< 0.24	0.39	*	
二又	H30.7.2~H30.7.30	4	< 0.037	0.050	*	0.23	0.29	0.16	
	H30.7.30~H30.9.3	5	< 0.055	0.095	*	0.24	0.30	0.17	
	H30.9.3~H30.10.1	4	0.069	0.11	0.045	0.42	0.45	0.35	
	第2四半期	13	< 0.054	0.11	*	0.29	0.45	0.16	
室ノ久保	H30.7.2~H30.7.30	4	< 0.031	0.048	*	*	*	*	
	H30.7.30~H30.9.3	5	0.036	0.059	0.018	< 0.15	0.18	*	
	H30.9.3~H30.10.1	4	0.052	0.073	0.032	0.32	0.38	0.24	
	第2四半期	13	< 0.039	0.073	*	< 0.20	0.38	*	

- ・168時間集じん終了後72時間放置、1時間測定。
- ・平均値の算出においては測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。すべての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「\*」と表示する。

## (4)大気中の気体状β放射能測定結果(クリプトン-85換算)

(単位:kBq/m<sup>3</sup>)

測定局	測定月	平均	最大	最小	備考
老部川	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	
二又	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	
室ノ久保	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。また、すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし、「ND」と表示する。

## (5)大気中のヨウ素-131測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定地点	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
老 部 川	H30. 7. 2 ~ H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30 ~ H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3 ~ H30.10. 2	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	
二 又	H30. 7. 2 ~ H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30 ~ H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3 ~ H30.10. 2	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	
室ノ久保	H30. 7. 2 ~ H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30 ~ H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3 ~ H30.10. 2	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	

・測定値は試料採取日に補正した値。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と表示する。

(6)環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機器分析										
				<sup>54</sup> Mn	<sup>60</sup> Co	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>154</sup> Eu	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac
大気浮遊じん	老部川	H30.7.2~ H30.10.1	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.0	ND	—	—
	二又	H30.7.2~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.0	ND	—	—	
	室ノ久保	H30.7.2~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.2	ND	—	—	
河川水	老部川下流	H30.7.24	mBq/ℓ トリチウムについては Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
	二又川	H30.7.25		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
湖沼水	尾駸沼1	H30.7.27		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
	尾駸沼2	H30.7.27		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
水道水	尾駸	H30.7.5		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	
	千歳平	H30.7.5		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	
	平沼	H30.7.6		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	
井戸水	二又	H30.7.6		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	
	尾駸1	H30.7.12		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	170	—	—	
	尾駸2	H30.7.12		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	
	河底土	老部川下流		Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	110	ND	ND
二又川		H30.7.25			ND	ND	ND	ND	ND	ND	100	ND	ND	
表土	尾駸	H30.7.20	ND		ND	ND	ND	8	ND	ND	ND	290	22	36
	千樽	H30.7.19	ND		ND	ND	ND	9	ND	ND	ND	270	23	32
牛乳(原乳)	二又	H30.7.10	Bq/ℓ		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	42	—	—
	豊原	H30.7.10	<sup>14</sup> Cについては 上:Bq/ℓ		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	47	—	—
	六原	H30.7.10	下:Bq/g炭素		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	47	—	—
バレイショ	尾駸	H30.8.1	Bq/kg生 <sup>14</sup> Cについては 上:Bq/kg生 下:Bq/g炭素		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	110	—	—
牧草	富ノ沢	H30.8.2			ND	ND	ND	ND	ND	ND	7	100	—	—
	二又	H30.7.24			ND	ND	ND	ND	ND	ND	19	160	—	—
	豊原	H30.7.27			ND	ND	ND	ND	ND	ND	8	160	—	—
	六原	H30.7.27			ND	ND	ND	ND	ND	ND	14	170	—	—
デントコーン	豊原	H30.9.26	ND	ND	ND	ND	ND	ND	32	100	—	—		
海水	放出口近	H30.7.11	mBq/ℓ トリチウムについては Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
	放出口5km北	H30.7.11		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
	放出口5km南	H30.7.11		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
魚類(ヒラメ)	六ヶ所村前海域	H30.9.3	Bq/kg生 トリチウムについては 上:Bq/kg生 下:Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	150	—	—	
海藻類(コンブ)	六ヶ所村前海域	H30.9.5		ND	ND	ND	ND	ND	ND	330	—	—		
頭足類(イカ)	六ヶ所村前海域	H30.9.3		ND	ND	ND	ND	ND	ND	120	—	—		
甲殻類(ヒラメガニ)	六ヶ所村前海域	H30.7.26		ND	ND	ND	ND	ND	ND	79	—	—		
その他(ウニ)	六ヶ所村前海域	H30.7.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND	140	—	—		

・Uは、<sup>234</sup>U、<sup>235</sup>U及び<sup>238</sup>Uの合計。

・機器分析によるγ線放出核種、<sup>3</sup>H及び<sup>90</sup>Srの測定値は、試料採取日に補正した値。



放射化学分析									備 考
<sup>3</sup> H	<sup>14</sup> C	<sup>90</sup> Sr	<sup>129</sup> I	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	U	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	ND	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	ND	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	ND	
ND	—	0.8	—	ND	ND	—	—	ND	
ND	—	0.6	—	ND	ND	—	—	7	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	45	塩分 20
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	45	塩分 21 (海水の塩分は約35)
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	—	—	—	—	—	
ND	—	4.0	—	—	—	—	—	—	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	4.7	
—	—	—	—	ND	0.04	—	—	28	
—	—	2.0	ND	ND	0.23	0.10	ND	45	
—	—	0.8	ND	ND	0.33	0.12	ND	51	
—	12	ND	—	—	—	—	—	ND	
—	0.24	ND	—	—	—	—	—	—	
—	18	ND	—	—	—	—	—	—	
—	0.23	ND	—	—	—	—	—	—	
—	15	ND	—	—	—	—	—	—	
—	0.23	ND	—	—	—	—	—	—	
—	23	ND	—	ND	ND	—	—	ND	
—	0.23	ND	—	ND	ND	—	—	ND	
—	—	0.30	—	—	—	—	—	ND	チモシー(2番草)
—	—	0.12	—	—	—	—	—	ND	チモシー(2番草)
—	—	0.11	—	—	—	—	—	—	チモシー(2番草) リードカナリーグラス(2番草)
—	—	0.11	—	—	—	—	—	—	オーチャードグラス(2番草)
—	—	ND	—	—	—	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	ND	0.002	—	—	—	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	
—	—	0.05	—	ND	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	ND	ND	—	—	—	

(7)大気中の水蒸気状トリチウム測定結果

測定地点	採取期間	測定値		大気中水分量 (g/m <sup>3</sup> )	備考
		大気中濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	水分中濃度 (Bq/l)		
老部川	H30. 6.29 ~ H30. 7.31	ND	ND	14	
	H30. 7.31 ~ H30. 8.31	ND	ND	14	
	H30. 8.31 ~ H30. 9.28	ND	ND	12	
二又	H30. 6.29 ~ H30. 7.31	ND	ND	14	
	H30. 7.31 ~ H30. 8.31	ND	ND	15	
	H30. 8.31 ~ H30. 9.28	ND	ND	13	
室ノ久保	H30. 6.29 ~ H30. 7.31	ND	ND	15	
	H30. 7.31 ~ H30. 8.31	ND	ND	15	
	H30. 8.31 ~ H30. 9.28	ND	ND	13	

・測定値は試料採取日に補正した値。

## (8)大気中の気体状フッ素測定結果

(単位:ppb)

測定局	測定月	平均	最大	最小	備考
老部川	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	
二又	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	
室ノ久保	7月	ND	ND	ND	
	8月	ND	ND	ND	
	9月	ND	ND	ND	
	第2四半期	ND	ND	ND	

## (9)環境試料中のフッ素測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	測定値	備考
大気	二又	H30. 7.13~ H30. 7.23	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	ND	
	室ノ久保	H30. 7.13~ H30. 7.23		ND	
河川水	老部川下流	H30. 7.24	mg/l	ND	
	二又川	H30. 7.25		ND	
湖沼水	尾駁沼1	H30. 7.27		0.7	塩分 20 塩分 21 (海水の塩分は約35)
	尾駁沼2	H30. 7.27		0.7	
河底土	老部川下流	H30. 7.24	mg/kg乾	83	
	二又川	H30. 7.25		64	
表土	尾駁	H30. 7.20		310	
	千樽	H30. 7.19		360	
牛乳(原乳)	二又	H30. 7.10	mg/l	ND	
バレイショ	尾駁	H30. 8. 1		ND	
牧草	富ノ沢	H30. 8. 2	mg/kg生	ND	チモシー(2番草)
	二又	H30. 7.24		ND	チモシー(2番草)

・「大気」の測定値は粒子状フッ素及び気体状フッ素の合計。

(10)気象観測結果

①風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(℃)			湿度(%)		降水量(mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
老部川	7月	—	—	—	—	—	—	—	155.0	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	316.0	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	132.5	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	603.5	0	0	0	0	0
二又	7月	2.1	6.1	20.3	31.1	12.0	83	56	137.5	0	0	0	0	0
	8月	2.1	6.9	20.5	32.2	7.1	81	32	348.0	0	0	0	0	0
	9月	1.7	9.2	17.9	28.5	5.9	79	37	150.5	0	0	0	0	0
	第2四半期	2.0	9.2	19.6	32.2	5.9	81	32	636.0	0	0	0	0	0
室ノ久保	7月	—	—	—	—	—	—	—	158.5	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	334.5	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	156.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	649.0	0	0	0	0	0

・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。

・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成25～29年度)の同一時期の平均値及び最大値。

②大気安定度出現頻度表

単位:時間(括弧内は%)

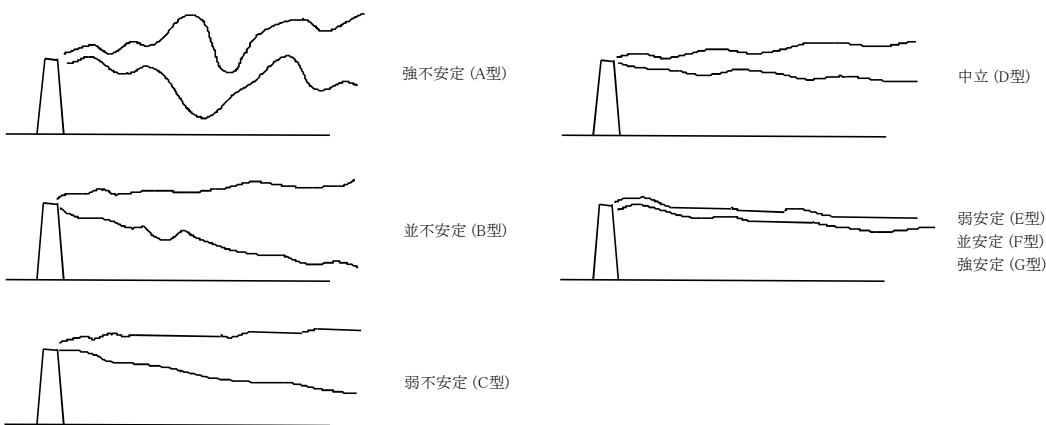
測定局	分類	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
	測定月												
二又	7月	28 (3.8)	45 (6.1)	83 (11.3)	21 (2.9)	63 (8.6)	8 (1.1)	389 (53.1)	11 (1.5)	9 (1.2)	76 (10.4)	733 (100)	
	8月	24 (3.2)	57 (7.7)	65 (8.7)	12 (1.6)	45 (6.0)	15 (2.0)	391 (52.6)	7 (0.9)	6 (0.8)	122 (16.4)	744 (100)	
	9月	13 (1.8)	53 (7.4)	83 (11.5)	10 (1.4)	30 (4.2)	9 (1.3)	283 (39.3)	13 (1.8)	12 (1.7)	214 (29.7)	720 (100)	
	第2 四半期	65 (3.0)	155 (7.1)	231 (10.5)	43 (2.0)	138 (6.3)	32 (1.5)	1063 (48.4)	31 (1.4)	27 (1.2)	412 (18.8)	2197 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.02 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

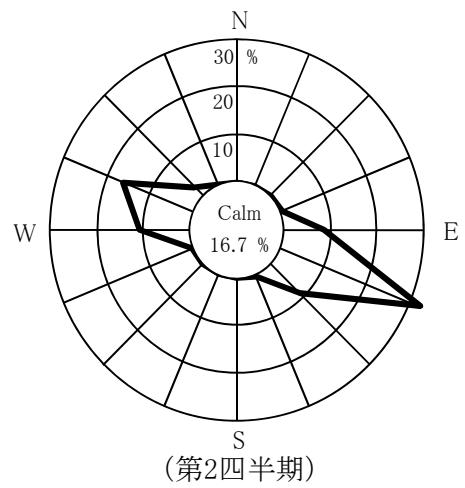
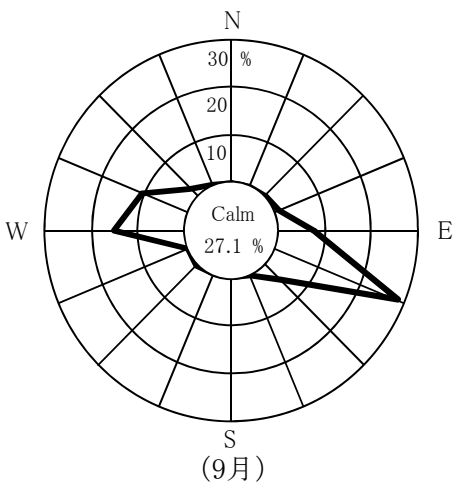
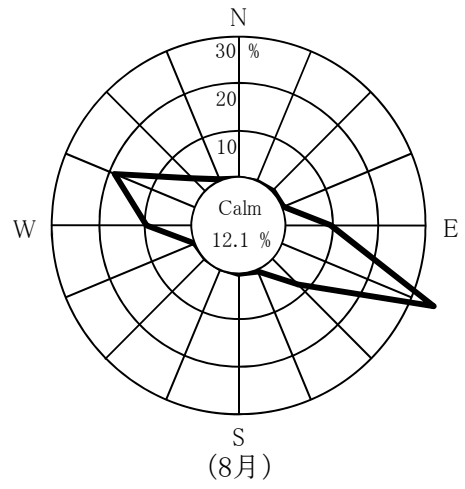
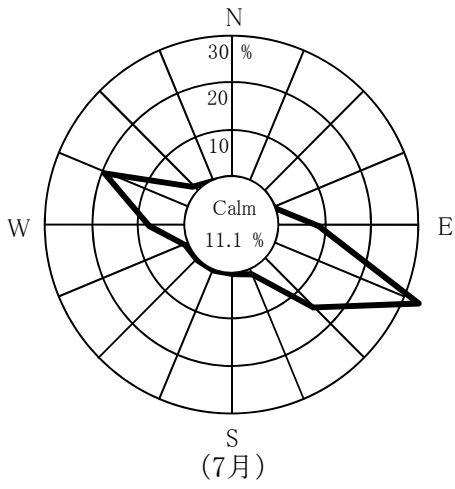
・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)



大気安定度と煙の型との模式

③風配図

二 又



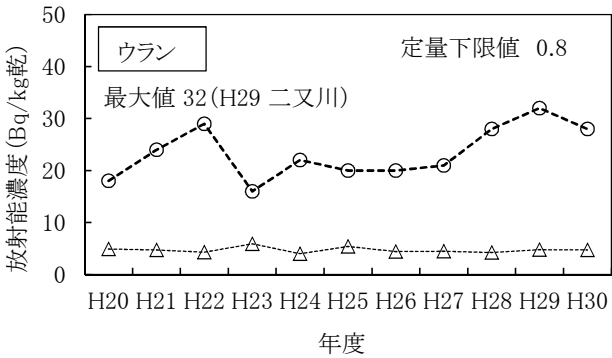
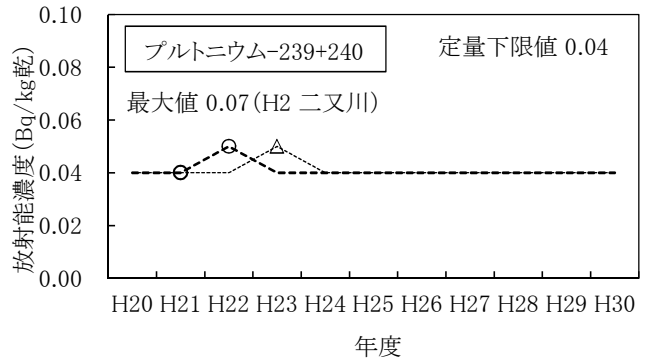
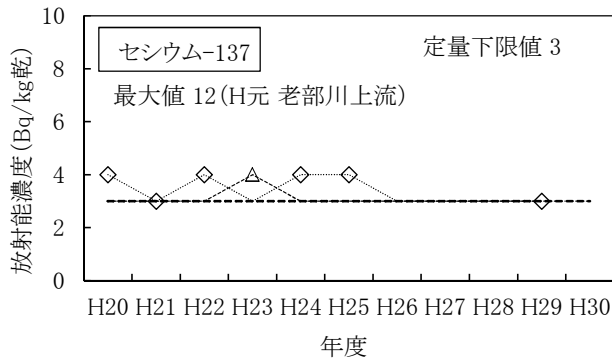
Calm: 風速0.4 m/sec以下





### 3. 放射能濃度の推移

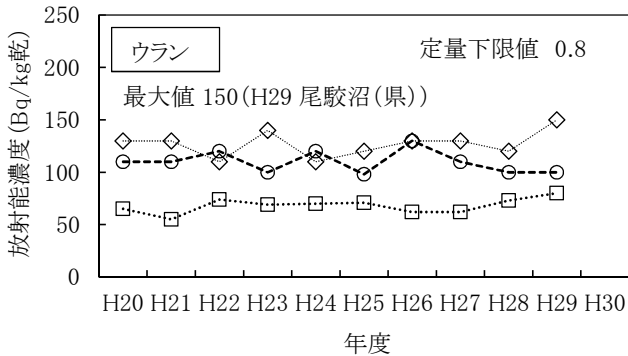
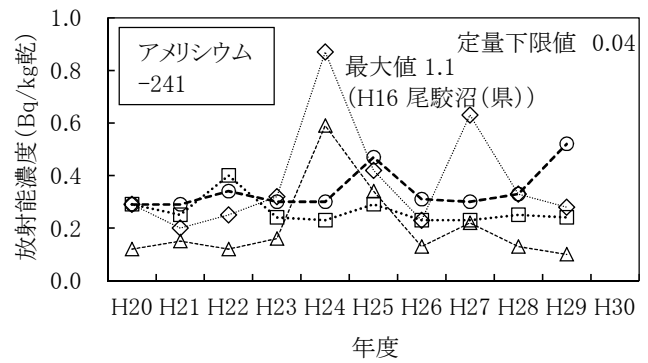
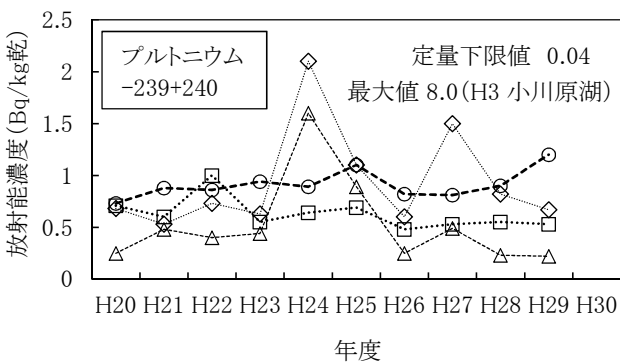
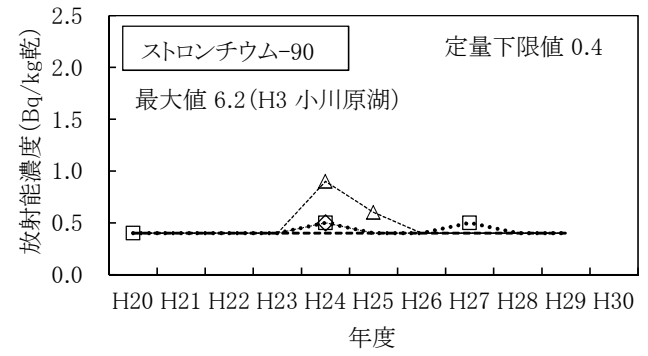
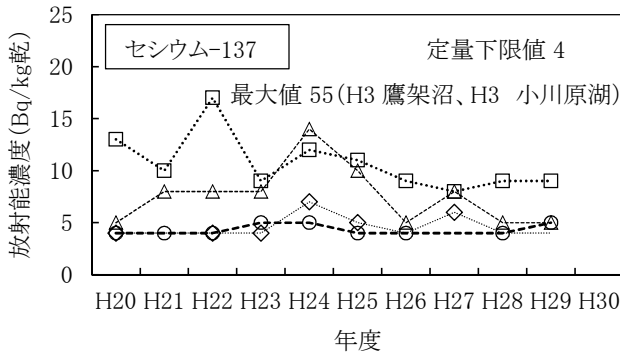
○図1-1 河底土中の放射能濃度の推移



(凡例)  
 ● 老部川上流  
 ▲ 老部川下流(事業者)  
 ○ 老部川下流(県)  
 ● 二又川

- ・プルトニウム-238についてはこれまでの測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。
- ・マーカーの無い箇所はNDを示す。
- ・ウランはウラン-234、ウラン-235及びウラン-238の合計。

○図1-2 湖底土中の放射能濃度の推移



(凡例)  
 ● 尾駱沼(県)  
 ▲ 小川原湖  
 ○ 鷹架沼  
 ● 尾駱沼(事業者)

- ・キュリウム-244については、これまでの測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。
- ・マーカーの無い箇所はNDを示す。
- ・ウランはウラン-234、ウラン-235及びウラン-238の合計。





# 東 通 原 子 力 発 電 所



## 1. 青森県実施分測定結果

(1) 空間放射線量率測定結果

① モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
小田野沢	7月	17	33	16	2.2	3	0	3	6~30 (18±12)	10~91	16~49 (18)	
	8月	18	49	16	3.8	14	0	14				
	9月	18	48	16	3.2	11	0	11				
	第2四半期	18	49	16	3.1	28	0	28				
老部	7月	16	35	14	2.3	7	0	7	4~28 (16±12)	8~111	15~71 (17)	
	8月	17	50	15	4.1	22	0	22				
	9月	17	44	15	3.8	24	0	24				
	第2四半期	17	50	14	3.5	53	0	53				
近川	7月	21	37	20	1.9	3	0	3	8~34 (21±13)	8~80	20~62 (22)	
	8月	22	47	20	3.2	10	0	10				
	9月	22	41	19	2.8	8	0	8				
	第2四半期	21	47	19	2.7	21	0	21				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、過去の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成25~29年度の測定値の「最小値~最大値」。  
ただし、小田野沢局については平成27~29年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、過去の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である東通原子力発電所に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。



(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
小田野沢	7月	56	71	54	2.2	
	8月	57	84	54	3.5	
	9月	57	82	54	2.9	
	第2四半期	57	84	54	3.0	
老 部	7月	55	72	53	2.3	
	8月	56	85	53	3.8	
	9月	56	79	53	3.4	
	第2四半期	56	85	53	3.3	
近 川	7月	59	74	57	1.9	
	8月	60	82	57	3.0	
	9月	60	77	57	2.6	
	第2四半期	60	82	57	2.6	

- 測定値は1時間値。
- 測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

②モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
砂子又	7月	21	34	20	1.8	0	0	0	8~34 (21±13)	10~93	20~68 (22)	
	8月	22	47	20	4.3	27	0	27				
	9月	22	59	20	3.5	16	0	16				
	第2四半期	22	59	20	3.4	43	0	43				
古野川	7月	19	34	18	1.5	2	0	2	7~31 (19±12)	9~84	18~59 (20)	
	8月	20	41	18	3.1	14	0	14				
	9月	20	73	18	3.5	11	0	11				
	第2四半期	20	73	18	2.8	27	0	27				
尻 芳	7月	20	37	18	1.9	2	0	2	9~31 (20±11)	11~73	18~71 (20)	
	8月	20	50	18	3.5	14	0	14				
	9月	20	35	18	2.0	4	0	4				
	第2四半期	20	50	18	2.6	20	0	20				
桜木町	7月	17	32	15	2.0	1	0	1	1~31 (16±15)	5~101	15~71 (17)	
	8月	17	51	15	4.3	18	0	18				
	9月	17	35	15	2.8	6	0	6				
	第2四半期	17	51	15	3.2	25	0	25				
関 根	7月	22	34	21	1.6	1	0	1	11~33 (22±11)	12~92	19~59 (23)	
	8月	23	51	21	3.1	11	0	11				
	9月	23	46	21	2.2	3	0	3				
	第2四半期	23	51	21	2.4	15	0	15				
吹 越	7月	23	39	21	2.0	7	0	7	12~34 (23±11)	14~93	21~57 (23)	
	8月	23	52	21	3.1	11	0	11				
	9月	23	40	22	2.6	7	0	7				
	第2四半期	23	52	21	2.6	25	0	25				
泊	7月	22	42	20	2.8	5	0	5	5~37 (21±16)	9~130	19~56 (22)	
	8月	22	69	20	5.4	22	0	22				
	9月	22	43	20	3.5	10	0	10				
	第2四半期	22	69	20	4.1	37	0	37				
尾 駁	7月	23	42	21	2.4	1	0	1	5~39 (22±17)	8~141	21~65 (24)	
	8月	23	79	21	4.8	8	0	8				
	9月	23	43	21	3.2	3	0	3				
	第2四半期	23	79	21	3.6	12	0	12				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、過去の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成25~29年度の測定値の「最小値~最大値」。  
ただし、泊局については平成27~29年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、過去の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である東通原子力発電所に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
砂子又	7月	55	67	53	1.7	
	8月	56	79	53	3.9	
	9月	56	88	53	3.2	
	第2四半期	56	88	53	3.1	
古野牛川	7月	59	72	54	1.9	
	8月	59	78	55	3.3	
	9月	58	109	53	3.5	
	第2四半期	59	109	53	3.0	
尻 労	7月	60	78	57	2.2	
	8月	62	92	58	3.8	
	9月	61	76	57	2.5	
	第2四半期	61	92	57	3.0	
桜木町	7月	54	70	51	2.4	
	8月	54	88	50	4.6	
	9月	53	72	50	3.1	
	第2四半期	54	88	50	3.5	
関 根	7月	52	65	50	1.9	
	8月	53	80	50	3.2	
	9月	52	76	50	2.3	
	第2四半期	52	80	50	2.5	
吹 越	7月	62	75	59	1.9	
	8月	62	87	59	2.8	
	9月	62	77	59	2.3	
	第2四半期	62	87	59	2.4	
泊	7月	61	79	58	2.6	
	8月	62	104	57	4.9	
	9月	61	79	58	3.2	
	第2四半期	61	104	57	3.7	
尾 駁	7月	61	78	57	2.3	
	8月	61	110	58	4.3	
	9月	62	78	58	2.8	
	第2四半期	61	110	57	3.3	

・測定値は1時間値。

・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

③モニタリングカーによる空間放射線量率(NaI)測定結果

ア 定点測定

測定地点		測定年月日	測定値 (nGy/h)	積雪深 (cm)	備考
東通村	白糠	H30.8.20	13	0	
	大平滝浄水場	〃	16	0	
	小田野沢	〃	13	0	
	上田代	〃	15	0	
	砂子又	〃	15	0	
むつ市	浜奥内	H30.8.23	11	0	
	中野沢	〃	15	0	
横浜町	浜田	〃	18	0	
六ヶ所村	泊	H30.9.3	20	0	

- ・測定値は10分値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

イ 走行測定

走行ルート	測定年月日	測定値の範囲 (nGy/h)	備考
ルートA(泊～発電所)	H30.9.12	13 ～ 18	
ルートB(発電所～砂子又)	〃	11 ～ 22	
ルートC(発電所～近川)	〃	12 ～ 19	
ルートD(浜田～奥内)	〃	13 ～ 19	

- ・測定値は500 m毎の平均値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

(2)積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3か月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
東通村	小田野沢	H30.6.27~H30.9.27 (92)	89	83 ~ 92	
	老部	〃	88	80 ~ 91	
	砂子又	〃	95	85 ~ 98	
	古野牛川	〃	95	85 ~ 97	
	尻勞	〃	95	84 ~ 97	
	大平滝浄水場	〃	96	75 ~ 99	
	猿ヶ森	〃	109	88 ~ 113	
	目名	〃	98	81 ~ 102	
むつ市	近川	〃	98	84 ~ 101	
	桜木町	〃	93	77 ~ 94	
	関根	〃	98	86 ~ 99	
	一里小屋	〃	102	91 ~ 104	
	美付	〃	92	85 ~ 96	
横浜町	吹越	〃	94	84 ~ 94	
	有畑	〃	110	93 ~ 115	
六ヶ所村	泊	〃	96	84 ~ 99	
	尾駱	〃	98	79 ~ 104	
	二又	〃	95	87 ~ 98	
むつ市	比較対照 (むつ市川内町)	〃	102	84 ~ 107	

・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。

・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。

・「平常の変動幅」は平成25~29年度の3か月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。

ただし、小田野沢及び泊については平成27~29年度の3か月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。  
美付における平成29年度第4四半期の測定値は平常の変動幅の設定に用いていない(平成29年度報告5参照)。

## (3)大気浮遊じん中の全β放射能測定結果

(単位:Bq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
小田野沢	H30. 7. 2～H30. 8. 1	239	0.79	6.4	0.018	
	H30. 8. 1～H30. 9. 3	263	1.0	5.3	0.14	
	H30. 9. 3～H30.10. 1	223	1.4	5.0	0.020	
	第 2 四 半 期	725	1.1	6.4	0.018	
老 部	H30. 7. 2～H30. 8. 1	239	0.81	4.2	0.024	
	H30. 8. 1～H30. 9. 3	263	0.93	5.3	0.13	
	H30. 9. 3～H30.10. 1	223	1.2	4.1	0.015	
	第 2 四 半 期	725	0.98	5.3	0.015	
近 川	H30. 7. 2～H30. 8. 1	239	1.3	6.1	0.027	
	H30. 8. 1～H30. 9. 3	263	1.2	6.4	0.083	
	H30. 9. 3～H30.10. 1	223	1.5	5.8	0.023	
	第 2 四 半 期	725	1.3	6.4	0.023	

- ・ 3時間集じん直後、10分間測定。
- ・ 平均値の算出においては測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し平均値に「<」を付ける。すべての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「\*」と表示する。

## (4)大気中のヨウ素-131測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
小田野沢	H30. 7. 2～H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30～H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3～H30.10. 1	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	
老 部	H30. 7. 2～H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30～H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3～H30.10. 1	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	
近 川	H30. 7. 2～H30. 7.30	4	ND	ND	ND	
	H30. 7.30～H30. 9. 3	5	ND	ND	ND	
	H30. 9. 3～H30.10. 1	4	ND	ND	ND	
	第 2 四 半 期	13	ND	ND	ND	

- ・ 168時間捕集直後、1時間測定。



## (5)環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機 器					
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs
大気浮遊じん	小 田 野 沢	H30.7.2~ H30.8.1	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H30.8.1~ H30.9.3		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H30.9.3~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	老 部	H30.7.2~ H30.8.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H30.8.1~ H30.9.3		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H30.9.3~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	近 川	H30.7.2~ H30.8.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H30.8.1~ H30.9.3		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H30.9.3~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
降 下 物	砂 子 又	H30.6.29~ H30.7.31	Bq/m <sup>2</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H30.7.31~ H30.8.31		ND	ND	ND	ND	ND	
		H30.8.31~ H30.9.28		ND	ND	ND	ND	ND	
水 道 水	老 部	H30.7.12	mBq/ℓ トリチウム についてはBq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	砂 子 又	H30.7.12		ND	ND	ND	ND	ND	
	一 里 小 屋	H30.7.12		ND	ND	ND	ND	ND	
	有 畑	H30.7.12		ND	ND	ND	ND	ND	
井 戸 水	浜 奥 内	H30.7.13	有 畑	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	有 畑	H30.7.13		ND	ND	ND	ND	ND	
表 土	周辺監視区域 境界付近	H30.7.19	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	4
	小 田 野 沢	H30.7.3		ND	ND	ND	ND	ND	4
	比較対照 (むつ市川内町)	H30.7.12		ND	ND	ND	ND	ND	9
パ レ イ シ ョ	有 畑	H30.8.4	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND
牛 乳 ( 原 乳 )	豊 栄	H30.7.4	Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	東 栄	H30.7.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND
海 水	放 水 口 付 近	H30.7.24	mBq/ℓ トリチウム についてはBq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	放 水 口 沖 点 北 2 k m 地	H30.7.24		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	放 水 口 沖 点 南 2 k m 地	H30.7.24		ND	ND	ND	ND	ND	ND
海 底 土	放 水 口 付 近	H30.7.24	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	放 水 口 沖 点 北 2 k m 地	H30.7.24		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	放 水 口 沖 点 南 2 k m 地	H30.7.24		ND	ND	ND	ND	ND	ND
ホ タ テ	横 浜 町 前 面 海	H30.7.19	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND
コ ン プ	放 水 口 付 近	H30.8.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	老 部 沖	H30.8.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND
ムラサキガイ	小 田 野 沢	H30.7.22	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND

・機器分析によるγ線放出核種、<sup>3</sup>H及び<sup>90</sup>Srの測定値は試料採取日に補正した値。

・ホタテ(横浜町前面海域)は原子燃料サイクル施設環境放射線調査の試料を兼ねる。



分 析					放射化学分析			備 考
<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	<sup>131</sup> I	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	<sup>239+240</sup> Pu	
1.5	—	—	—	—	—	—	—	
2.2	—	—	—	—	—	—	—	
4.9	—	—	—	—	—	—	—	
1.6	—	—	—	—	—	—	—	
2.1	—	—	—	—	—	—	—	
5.1	—	—	—	—	—	—	—	
1.7	—	—	—	—	—	—	—	
2.0	—	—	—	—	—	—	—	
5.1	—	—	—	—	—	—	—	
84	ND	—	—	—	—	—	—	
280	ND	—	—	—	—	—	—	
260	ND	—	—	—	—	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	
ND	230	ND	ND	—	—	—	ND	
ND	180	ND	ND	—	—	—	0.09	
ND	310	16	31	—	—	—	0.16	
ND	110	—	—	—	—	ND	—	
ND	51	—	—	ND	—	ND	—	
ND	50	—	—	ND	—	ND	—	
ND	—	—	—	—	ND	—	—	
ND	—	—	—	—	ND	—	—	
ND	—	—	—	—	ND	—	—	
ND	170	ND	ND	—	—	—	0.30	
ND	170	ND	ND	—	—	—	0.34	
ND	140	ND	ND	—	—	—	0.32	
ND	86	—	—	—	—	ND	ND	
ND	280	—	—	ND	—	ND	0.003	
ND	270	—	—	ND	—	ND	0.004	
ND	29	—	—	—	—	ND	ND	

## (6) 気象観測結果

① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(°C)			湿度(%)		降水量(mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
小 田 野 沢	7月	—	—	—	—	—	—	—	165.0	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	335.5	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	127.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	627.5	0	0	0	0	0
老 部	7月	1.8	7.3	19.7	30.8	12.0	89	56	207.0	0	0	0	0	0
	8月	2.5	6.9	20.7	32.5	13.2	86	48	336.0	0	0	0	0	0
	9月	2.1	8.8	19.0	29.1	11.8	80	36	156.5	0	0	0	0	0
	第2四半期	2.1	8.8	19.8	32.5	11.8	85	36	699.5	0	0	0	0	0
近 川	7月	1.3	7.1	20.9	32.5	11.7	87	61	117.0	0	0	0	0	0
	8月	1.6	8.0	20.8	31.9	9.9	85	48	294.5	0	0	0	0	0
	9月	1.3	7.7	18.5	28.8	9.1	82	34	132.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	1.4	8.0	20.1	32.5	9.1	85	34	543.5	0	0	0	0	0
砂 子 又	7月	—	—	—	—	—	—	—	110.0	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	370.5	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	138.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	618.5	0	0	0	0	0
古 野 牛 川	7月	—	—	—	—	—	—	—	100.0	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	273.0	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	154.5	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	527.5	0	0	0	0	0
尻 労	7月	—	—	—	—	—	—	—	149.5	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	261.5	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	109.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	520.0	0	0	0	0	0

測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(℃)			湿度(%)		降水量 (mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
桜木町	7月	—	—	—	—	—	—	—	157.5	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	390.5	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	152.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	700.0	0	0	0	0	0
関根	7月	—	—	—	—	—	—	—	123.0	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	261.5	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	127.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	511.5	0	0	0	0	0
吹越	7月	—	—	—	—	—	—	—	118.5	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	249.5	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	142.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	510.0	0	0	0	0	0
泊	7月	—	—	—	—	—	—	—	228.5	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	434.5	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	158.5	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	821.5	0	0	0	0	0
尾駸	7月	—	—	—	—	—	—	—	151.0	0	0	0	0	0
	8月	—	—	—	—	—	—	—	293.0	0	0	0	0	0
	9月	—	—	—	—	—	—	—	138.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	582.0	0	0	0	0	0

- ・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成25～29年度)の同一時期の平均値及び最大値。ただし、小田野沢局及び泊局については、平成26年度に設置場所の移動を行ったことから、平成27～29年度の同一時期の平均値及び最大値。

②大気安定度出現頻度表

単位:時間(括弧内は%)

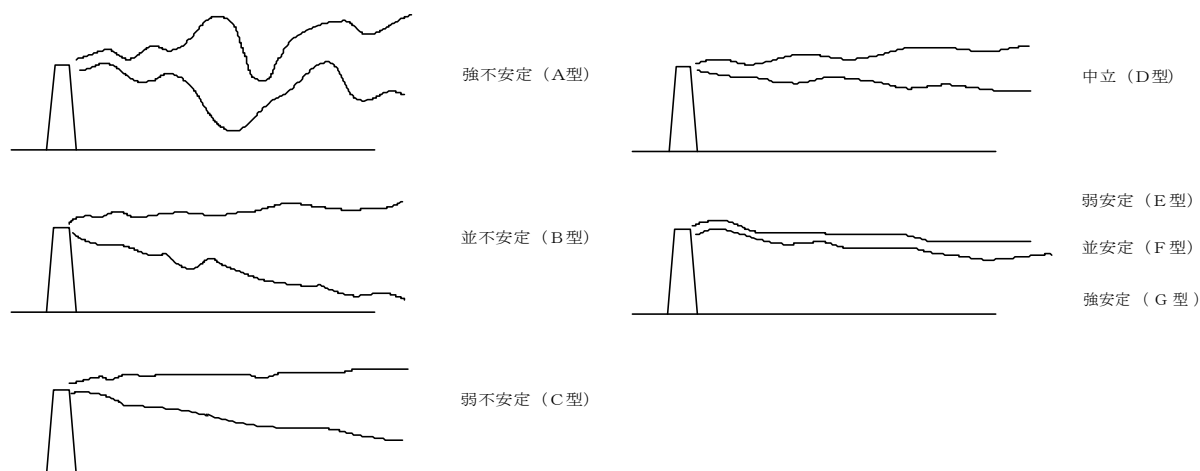
測定局	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
		老部											
老部	7月	29 (3.9)	76 (10.2)	74 (9.9)	8 (1.1)	27 (3.6)	5 (0.7)	488 (65.6)	13 (1.7)	1 (0.1)	23 (3.1)	744 (100)	
	8月	24 (3.2)	55 (7.4)	66 (8.9)	12 (1.6)	26 (3.5)	13 (1.7)	434 (58.3)	23 (3.1)	16 (2.2)	75 (10.1)	744 (100)	
	9月	10 (1.4)	74 (10.3)	80 (11.1)	7 (1.0)	25 (3.5)	6 (0.8)	386 (53.6)	21 (2.9)	2 (0.3)	109 (15.1)	720 (100)	
	第2 四半期	63 (2.9)	205 (9.3)	220 (10.0)	27 (1.2)	78 (3.5)	24 (1.1)	1,308 (59.2)	57 (2.6)	19 (0.9)	207 (9.4)	2,208 (100)	
近川													
近川	7月	49 (6.6)	77 (10.3)	87 (11.7)	4 (0.5)	19 (2.6)	2 (0.3)	416 (55.9)	5 (0.7)	6 (0.8)	79 (10.6)	744 (100)	
	8月	40 (5.4)	64 (8.6)	67 (9.0)	9 (1.2)	24 (3.2)	6 (0.8)	411 (55.2)	3 (0.4)	1 (0.1)	119 (16.0)	744 (100)	
	9月	34 (4.7)	82 (11.4)	70 (9.7)	4 (0.6)	11 (1.5)	1 (0.1)	299 (41.5)	4 (0.6)	7 (1.0)	208 (28.9)	720 (100)	
	第2 四半期	123 (5.6)	223 (10.1)	224 (10.1)	17 (0.8)	54 (2.4)	9 (0.4)	1,126 (51.0)	12 (0.5)	14 (0.6)	406 (18.4)	2,208 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

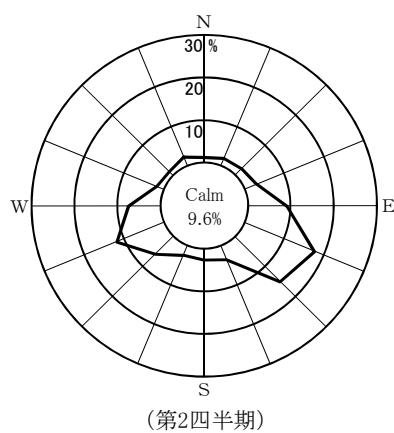
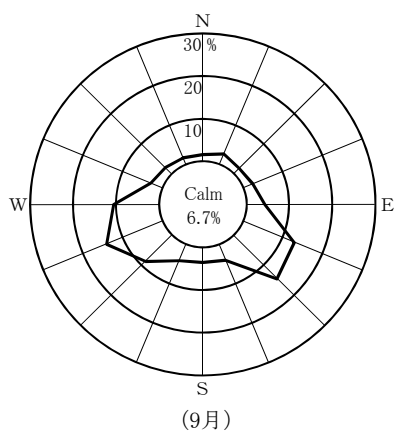
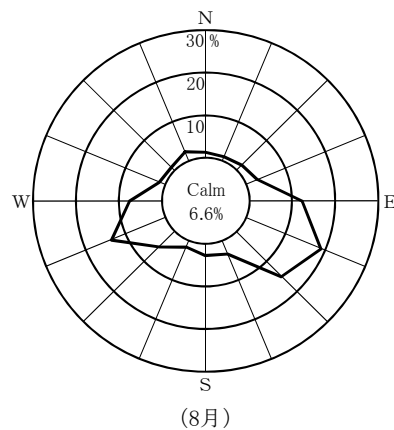
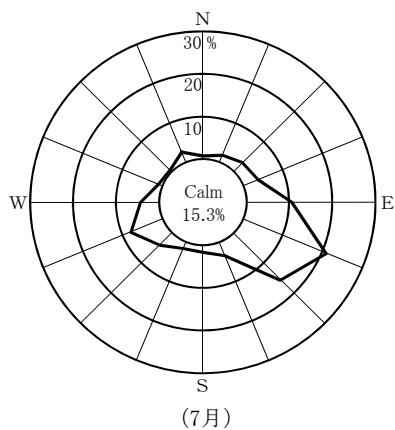
風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.020 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)

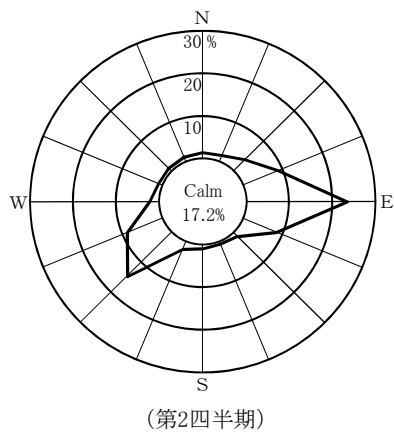
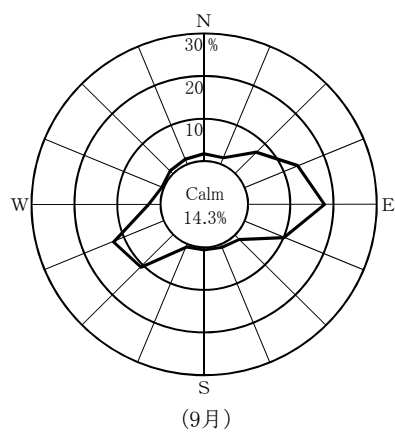
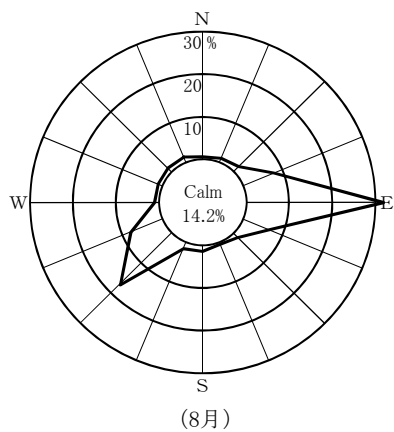
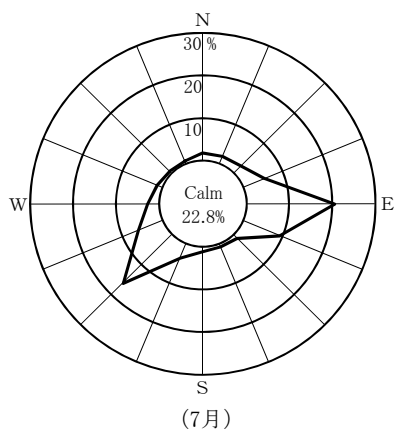


大気安定度と煙の型との模式図

③ 風配図  
老 部



近 川



Calm: 風速0.4 m/sec以下



## 2. 事業者実施分測定結果

(1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数(単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数(単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
小川町	7月	15	31	14	1.6	2	0	2	7~27 (17±10)	11~64	14~50 (16)	
	8月	16	39	14	2.7	9	0	9				
	9月	16	27	14	2.1	0	0	0				
	第2四半期	16	39	14	2.2	11	0	11				
林ノ脇	7月	20	33	18	1.6	1	0	1	10~32 (21±11)	12~88	18~55 (21)	
	8月	20	42	19	2.6	10	0	10				
	9月	21	33	19	2.0	1	0	1				
	第2四半期	20	42	18	2.2	12	0	12				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、過去の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成25~29年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、過去の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である東通原子力発電所に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。



(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
小川町	7月	48	64	46	1.7	
	8月	48	72	46	2.8	
	9月	48	59	46	1.9	
	第2四半期	48	72	46	2.2	
林ノ脇	7月	53	67	50	1.9	
	8月	53	78	50	2.9	
	9月	53	65	50	2.1	
	第2四半期	53	78	50	2.4	

・測定値は1時間値。

・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

(2)積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間 (日数)	3か月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
東通村	白 糠	H30. 6.27~H30. 9.27 (92)	91	81 ~ 89	
	上 田 代	"	101	84 ~ 102	
	上 田 屋	"	101	89 ~ 102	
	蒲 野 沢	"	96	85 ~ 99	
むつ市	小 川 町	"	89	84 ~ 90	
横浜町	林 ノ 脇	"	97	88 ~ 97	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
  - ・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
  - ・「平常の変動幅」は平成25~29年度の3か月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。
- ただし、白糠については平成26~29年度の3か月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。



(3)環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機 器				
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs
大気浮遊じん	周辺監視区域境界付近(西側)	H30.7.2~ H30.8.1	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND
		H30.8.1~ H30.9.3		ND	ND	ND	ND	ND
		H30.9.3~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND
	周辺監視区域境界付近(南側)	H30.7.2~ H30.8.1		ND	ND	ND	ND	ND
		H30.8.1~ H30.9.3		ND	ND	ND	ND	ND
		H30.9.3~ H30.10.1		ND	ND	ND	ND	ND
降下物	周辺監視区域境界付近	H30.6.29~ H30.7.31	Bq/m <sup>2</sup>	ND	ND	ND	ND	ND
		H30.7.31~ H30.8.31		ND	ND	ND	ND	ND
		H30.8.31~ H30.9.28		ND	ND	ND	ND	ND
水道水	小田野沢	H30.7.4	mBq/ℓ トリチウム については Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND
	近川	H30.7.3		ND	ND	ND	ND	ND
	泊	H30.7.4		ND	ND	ND	ND	ND
井戸水	白糠	H30.7.4		ND	ND	ND	ND	ND
表土	敷地境界付近	H30.7.23	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND
	老部	H30.7.23		ND	ND	ND	ND	ND
バレイショ	白糠	H30.8.13	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND
牛乳(原乳)	金谷沢	H30.7.3	Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND
	鶏沢	H30.7.3		ND	ND	ND	ND	ND
牧草	金谷沢	H30.7.27	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND
海水	放水口付近	H30.7.25	mBq/ℓ トリチウム については Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND
	放水口沖	H30.7.25		ND	ND	ND	ND	ND
海底土	放水口付近	H30.7.25	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND
	放水口沖	H30.7.25		ND	ND	ND	ND	ND
ヒラメ	東通村太平洋側海域	H30.7.18	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND
アイナメ	東通村太平洋側海域	H30.7.3		ND	ND	ND	ND	ND
コンブ	小田野沢沖	H30.7.23		ND	ND	ND	ND	ND
ウニ	小田野沢沖	H30.7.23		ND	ND	ND	ND	ND

・測定値は、試料採取日に補正した値。

分 析					放射化学分析			備 考
<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	<sup>131</sup> I	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	
ND	1.3	—	—	—	—	—	—	
ND	1.8	—	—	—	—	—	—	
ND	4.5	—	—	—	—	—	—	
ND	1.8	—	—	—	—	—	—	
ND	2.2	—	—	—	—	—	—	
ND	5.2	—	—	—	—	—	—	
ND	160	ND	—	—	—	—	—	
ND	370	ND	—	—	—	—	—	
ND	160	ND	—	—	—	—	—	
ND	ND	ND	—	—	—	ND	—	
ND	ND	ND	—	—	—	ND	—	
ND	ND	ND	—	—	—	ND	—	
ND	ND	ND	—	—	—	ND	—	
34	ND	250	10	25	—	—	—	
33	ND	350	25	36	—	—	—	
ND	ND	110	—	—	—	—	ND	
ND	ND	48	—	—	ND	—	ND	
ND	ND	50	—	—	ND	—	ND	
ND	11	200	—	—	—	—	—	オーチャード'グラス(2番草)
ND	ND	—	—	—	—	ND	—	
ND	ND	—	—	—	—	ND	—	
ND	ND	150	ND	ND	—	—	—	
ND	ND	170	ND	ND	—	—	—	
ND	ND	140	—	—	—	—	ND	
ND	ND	120	—	—	—	—	ND	
ND	ND	300	—	—	ND	—	ND	
ND	ND	130	—	—	—	—	ND	

#### (4)気象観測結果

##### ①降水量・積雪深

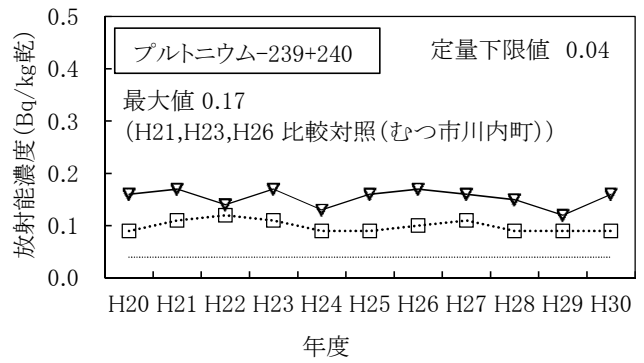
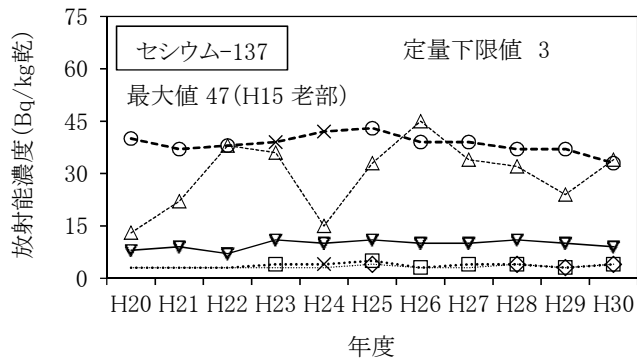
測定局	測定月	降水量 (mm)	積雪深(cm)				
			平均	最大	最小	過去の値	
						平均	最大
小川町	7月	116.0	0	0	0	0	0
	8月	325.0	0	0	0	0	0
	9月	126.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	567.0	0	0	0	0	0
林ノ脇	7月	90.5	0	0	0	0	0
	8月	222.5	0	0	0	0	0
	9月	76.5	0	0	0	0	0
	第2四半期	389.5	0	0	0	0	0

・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。

・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成25～29年度)の同一時期の平均値及び最大値。

### 3. 放射能濃度の推移

○図2-1 表土中の放射能濃度の推移

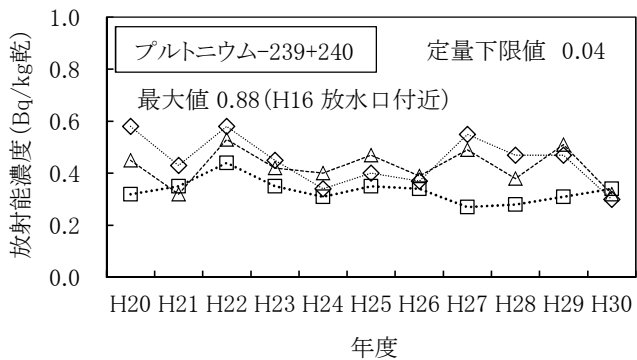


(凡例)

- ◇ 周辺監視区域境界付近
- △ 敷地境界付近
- ▽ 比較対照 (むつ市川内町)
- 小田野沢
- 老部

・マーカーの無い箇所はNDを、「×」は、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が認められたことから、平常の変動幅の設定に用いないこととした測定値を示す。

○図2-2 海底土中の放射能濃度の推移



(凡例)

- ◇ 放水口付近(県)
- △ 放水口沖南2km
- 放水口沖北2km

・セシウム-137については、これまでの測定値が全てNDであったためグラフの作成を省略した。



# リサイクル燃料備蓄センター



## 1. 青森県実施分測定結果

(1) 空間放射線量率測定結果

① モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
関根	7月	22	34	21	1.6	1	-	1	11~33 (22±11)	12~92	19~59 (23)	
	8月	23	51	21	3.1	11	-	11				
	9月	23	46	21	2.2	3	-	3				
	第2四半期	23	51	21	2.4	15	-	15				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、過去の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成25~29年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、過去の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設であるリサイクル燃料備蓄センターに起因するもの。ただし、施設が操業前であるため、表には「-」として記載している。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。

(参考) モニタリングポストによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
関根	7月	52	65	50	1.9	
	8月	53	80	50	3.2	
	9月	52	76	50	2.3	
	第2四半期	52	80	50	2.5	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

(2)積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3か月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
むつ市	関根	H30.6.27~H30.9.27 (92)	98	86 ~ 99	
	水川目	〃	92	81 ~ 97	
	美付	〃	92	85 ~ 96	
	浜関根	〃	97	88 ~ 102	
	比較対照 (むつ市川内町)	〃	102	84 ~ 107	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日当たりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成25~29年度の3か月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。  
ただし、美付における平成29年度第4四半期の測定値は平常の変動幅の設定に用いていない(平成29年度報 付5参照)。

(3)環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機器分析										備考
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	
表土	関根	H30. 7.12	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	9	ND	320	16	31	
	水川目	H30. 7.12		ND	ND	ND	ND	8	ND	160	ND	ND		
	浜ノ平	H30. 7. 3		ND	ND	ND	ND	9	ND	260	14	24		
	比較対照 (むつ市川内町)	H30. 7.12		ND	ND	ND	ND	9	ND	310	16	31		

- ・測定値は試料採取日に補正した値。

(4)気象観測結果

①降水量・積雪深

測定局	測定月	降水量 (mm)	積雪深(cm)				
			平均	最大	最小	過去の値	
						平均	最大
関根	7月	123.0	0	0	0	0	0
	8月	261.5	0	0	0	0	0
	9月	127.0	0	0	0	0	0
	第2四半期	511.5	0	0	0	0	0

- ・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成25~29年度)の同一時期の平均値及び最大値。



## 2. 事業者実施分測定結果

(1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
美付	7月	20	33	18	1.8	0	-	0	5~33 (19±14)	7~92	18~59 (21)	
	8月	20	52	18	3.4	8	-	8				
	9月	20	58	18	2.8	2	-	2				
	第2四半期	20	58	18	2.8	10	-	10				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3か月間で約2,200時間。
- ・測定値は3MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、過去の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成25~29年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は、過去の測定値のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設であるリサイクル燃料備蓄センターに起因するもの。ただし、施設が操業前であるため、表には「-」として記載している。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。

(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果 (単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
美付	7月	54	66	51	1.9	
	8月	55	85	52	3.3	
	9月	55	92	51	2.7	
	第2四半期	55	92	51	2.7	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は3MeVを超える高エネルギー成分を含む。



## (2) 積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3か月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
むつ市	美付	H30. 6.27 ~ H30. 9.27 (92)	96	84~98	
東通村	石持	〃	94	82~96	
	大利	〃	88	76~91	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3か月積算線量」は測定期間の測定値を91日当たりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は、平成25~29年度の3か月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。

## (3) 環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単 位	機 器 分 析										備 考
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	
表土	美付	H30.7.17	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	17	ND	320	32	40	
	大利	H30.7.17		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	100	13	ND	

- ・測定値は、試料採取日に補正した値。

## (4) 気象観測結果

### ①降水量・積雪深

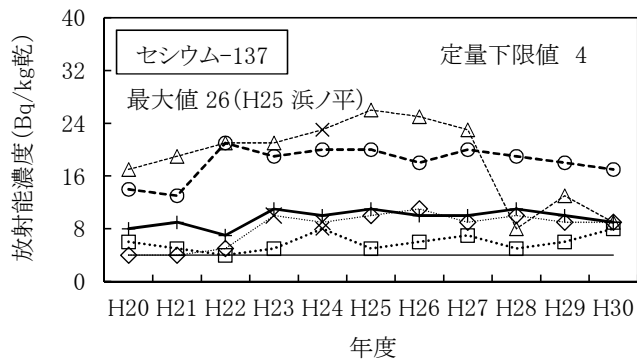
測定局	測定月	降水量 (mm)	積 雪 深(cm)				
			平均	最大	最小	過去の値	
						平均	最大
美付	7月	107.0	0	0	0	0	0
	8月	239.0	0	0	0	0	0
	9月	135.5	0	0	0	0	0
	第2四半期	481.5	0	0	0	0	0

- ・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成25~29年度)の同一時期の平均値及び最大値。



### 3. 放射能濃度の推移

○図3-1 表土中の放射能濃度の推移



(凡例)

- ◇ 関根
- △ 濱ノ平
- ▽ 大利
- 水川目
- 美付
- + 比較対照(むつ市川内町)

- ・「×」は、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が認められたことから、平常の変動幅の設定に用いないこととした測定値を示す。
- ・濱ノ平は、平成28年度、平成29年度に採取場所を変更している。

## 周辺監視区域内測定結果

# 参 考 資 料

## 1. モニタリングポスト測定結果

### (1) 再処理事業所モニタリングポスト

- ① 空間放射線量率(低線量率計)
- ② 大気中の気体状 $\beta$ 放射能(クリプトン-85換算)

### (2) 濃縮・埋設事業所モニタリングポスト

- ① 空間放射線量率(低線量率計)

## 2. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果

## 3. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果

## 4. 気象観測結果

- ① 風速
- ② 降水量
- ③ 大気安定度
- ④ 風配図

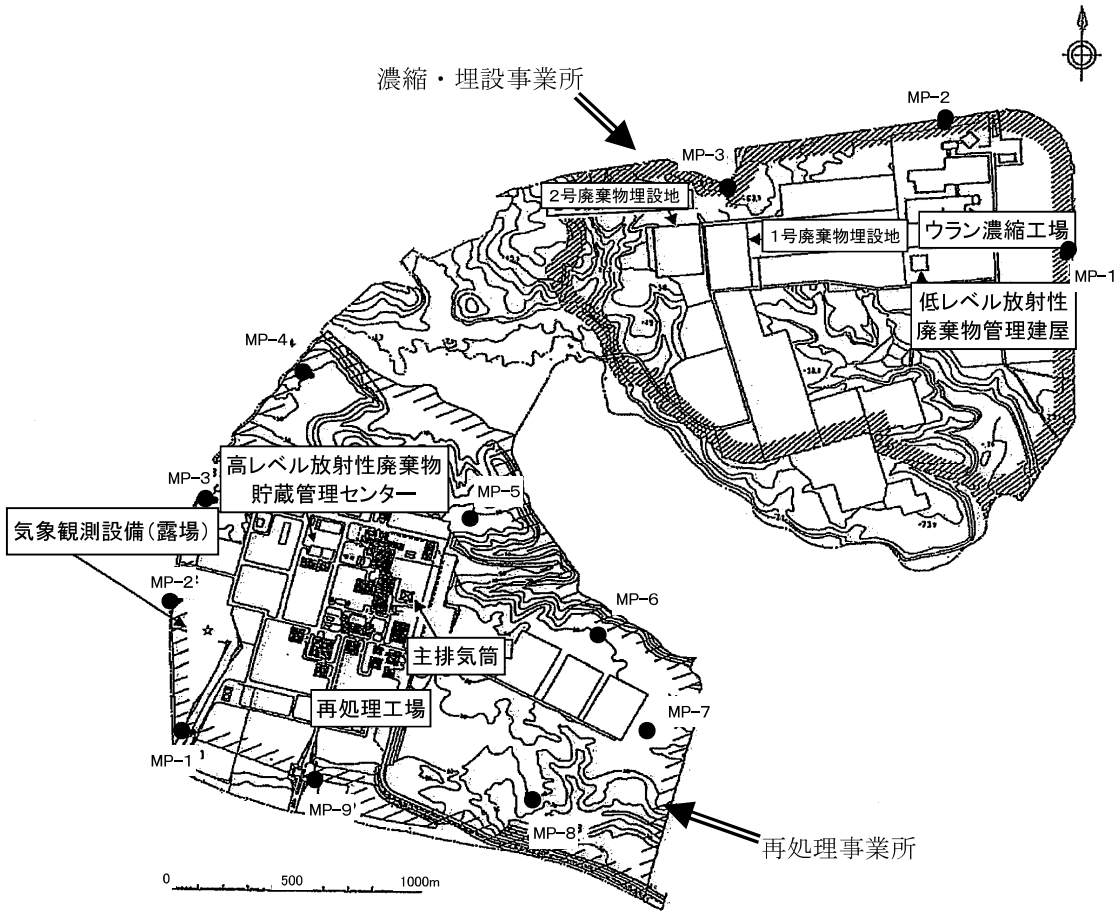


図 モニタリングポスト、主排気筒、気象観測設備配置図

## 1.モニタリングポスト測定結果

(1)再処理事業所モニタリングポスト(平成30年7月～平成30年9月)

①空間放射線量率(低線量率計)

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	7月	16	32	15	91	
	8月	17	55	15		
	9月	17	34	15		
	第2四半期	17	55	15		
MP-2	7月	19	33	17	112	
	8月	19	54	17		
	9月	19	36	17		
	第2四半期	19	54	17		
MP-3	7月	16	34	14	142	
	8月	17	61	14		
	9月	17	36	15		
	第2四半期	16	61	14		
MP-4	7月	17	34	15	123	
	8月	18	59	16		
	9月	18	38	16		
	第2四半期	18	59	15		
MP-5	7月	17	33	15	123	
	8月	17	54	15		
	9月	17	33	15		
	第2四半期	17	54	15		
MP-6	7月	17	34	15	128	
	8月	17	61	15		
	9月	17	37	15		
	第2四半期	17	61	15		
MP-7	7月	17	33	15	150	
	8月	18	61	16		
	9月	18	34	16		
	第2四半期	17	61	15		
MP-8	7月	17	33	15	111	
	8月	18	60	16		
	9月	18	35	16		
	第2四半期	17	60	15		
MP-9	7月	18	33	16	103	
	8月	18	55	16		
	9月	18	34	16		
	第2四半期	18	55	16		

・3φ×3″NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型)、連続測定(1時間値)、局舎屋根(地上約6 m)に設置。

・測定値は1時間値。

・測定値は、3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・「過去最大値」は、平成25～29年度までの測定値の最大値。

②大気中の気体状β放射能(クリプトン-85換算)

(単位:kBq/m<sup>3</sup>)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	7月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	第2四半期	ND	ND	ND		
MP-2	7月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	第2四半期	ND	ND	ND		
MP-3	7月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	第2四半期	ND	ND	ND		
MP-4	7月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	第2四半期	ND	ND	ND		
MP-5	7月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	第2四半期	ND	ND	ND		
MP-6	7月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	第2四半期	ND	ND	ND		
MP-7	7月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	第2四半期	ND	ND	ND		
MP-8	7月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	第2四半期	ND	ND	ND		
MP-9	7月	ND	ND	ND	ND	定量下限値以上となった回数 :0回
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	第2四半期	ND	ND	ND		

・プラスチックシンチレーション検出器(350×300×0.5 mm)、連続測定(1時間値)

・測定値は1時間値。

・NDは、定量下限値(2 kBq/m<sup>3</sup>)未満を示す。

・「過去最大値」は、平成25～29年度の測定値の最大値。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と示す。



## (2)濃縮・埋設事業所モニタリングポスト(平成30年7月～平成30年9月)

## ①空間放射線量率(低線量率計)

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	7月	19	36	17	120	
	8月	20	73	18		
	9月	20	39	18		
	第2四半期	20	73	17		
MP-2	7月	23	38	21	107	
	8月	24	64	22		
	9月	24	39	22		
	第2四半期	24	64	21		
MP-3	7月	23	38	21	115	
	8月	24	65	22		
	9月	24	41	22		
	第2四半期	24	65	21		

- ・ 2"φ×2"NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型)、連続測定(1時間値)、地上約1.8 mに設置。
- ・ 測定値は1時間値。
- ・ 測定値は、3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・ 「過去最大値」は、平成25～29年度までの測定値の最大値。

2. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果（平成30年7月～平成30年9月）

（単位：Bq）

測定月	$^3\text{H}$	$^{129}\text{I}$	$^{131}\text{I}$	その他 $\alpha$ 線を放出する核種	その他 $\alpha$ 線を放出しない核種	備考
7月	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
8月	$1.9 \times 10^9$ ( $1.0 \times 10^8$ )	*	*	*	*	
9月	$1.8 \times 10^9$ ( $5.5 \times 10^7$ )	*	*	*	*	
第2四半期	$3.7 \times 10^9$ ( $1.6 \times 10^8$ )	*	*	*	*	

- ・放出量は、低レベル廃液処理建屋と使用済燃料受入れ・貯蔵管理建屋からの放出を合わせた数値である。
- ・「その他  $\alpha$  線を放出する核種」は全  $\alpha$ 、「その他  $\alpha$  線を放出しない核種」は全  $\beta$  ( $\gamma$ ) である。
- ・全  $\alpha$  又は全  $\beta$  ( $\gamma$ ) が検出限界以上の場合は、当該試料について核種別に測定した結果を用いて算出している。  
( )内の数値は、測定結果が有意値となったときの検出限界濃度(Bq/cm<sup>3</sup>)に排水量(cm<sup>3</sup>)を乗じて算出した放射能(Bq)を足し合わせた量である。

(参考)その他  $\alpha$  線を放出する核種及びその他  $\alpha$  線を放出しない核種の核種ごとの放出量

(単位：Bq)

測定月	Pu( $\alpha$ )	Am( $\alpha$ )	Cm( $\alpha$ )	$^{241}\text{Pu}$	$^{60}\text{Co}$	$^{106}\text{Ru}$	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$
7月	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
8月	*	*	*	*	*	*	*	*
9月	*	*	*	*	*	*	*	*
第2四半期	*	*	*	*	*	*	*	*

測定月	$^{154}\text{Eu}$	$^{144}\text{Ce}$	$^{90}\text{Sr}$	備考
7月	放出実績なし	放出実績なし	/	
8月	*	*		
9月	*	*		
第2四半期	*	*		*

- ・低レベル廃液処理建屋からの放出を示す。
- ・ $^{90}\text{Sr}$ は、四半期ごとに測定している。

3. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果（平成30年7月～平成30年9月）

（単位：Bq）

測定月	$^{85}\text{Kr}$	$^3\text{H}$	$^{14}\text{C}$	$^{129}\text{I}$	$^{131}\text{I}$	その他α線を放出する核種	その他α線を放出しない核種	備考
7月	*	$6.1 \times 10^9$ ( $3.0 \times 10^9$ )	*	*	*	*	*	
8月	*	$4.9 \times 10^9$ ( $2.5 \times 10^9$ )	*	*	*	*	*	
9月	*	$5.0 \times 10^9$ ( $3.1 \times 10^9$ )	*	*	*	*	*	
第2四半期	*	$1.6 \times 10^{10}$ ( $8.7 \times 10^9$ )	*	*	*	*	*	

- ・「その他α線を放出する核種」は全α、「その他α線を放出しない核種」は全β(γ)及び揮発性 $^{106}\text{Ru}$ である。
- ・全α又は全β(γ)が検出限界以上の場合は、当該試料について核種別に測定した結果を用いて算出している。
- （ ）内の数値は、測定結果が有意値となったときの検出限界濃度(Bq/cm<sup>3</sup>)に排気量(cm<sup>3</sup>)を乗じて算出した放射能(Bq)を足し合わせた量である。

(参考)その他α線を放出する核種及びその他α線を放出しない核種の核種ごとの放出量（単位：Bq）

測定月	Pu(α)	$^{106}\text{Ru}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{90}\text{Sr}$	備考
7月	*	*	*	/	
8月	*	*	*		
9月	*	*	*		
第2四半期	*	*	*		

・ $^{90}\text{Sr}$ は、四半期ごとに測定している。

○放出量測定結果における検出限界濃度

(1) 液体廃棄物の検出限界濃度 (単位: Bq/cm<sup>3</sup>)

核 種	検出限界濃度
<sup>3</sup> H	2×10 <sup>-1</sup> 以下
<sup>129</sup> I	2×10 <sup>-3</sup> 以下
<sup>131</sup> I	2×10 <sup>-2</sup> 以下
全α	4×10 <sup>-3</sup> 以下
全β(γ)	4×10 <sup>-2</sup> 以下
Pu(α)	1×10 <sup>-3</sup> 以下
Am(α)	6×10 <sup>-5</sup> 以下
Cm(α)	6×10 <sup>-5</sup> 以下
<sup>241</sup> Pu	3×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>60</sup> Co	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>106</sup> Ru	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>134</sup> Cs	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>137</sup> Cs	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>154</sup> Eu	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>144</sup> Ce	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>90</sup> Sr	7×10 <sup>-4</sup> 以下

(2) 気体廃棄物の検出限界濃度 (単位: Bq/cm<sup>3</sup>)

核 種	検出限界濃度
<sup>85</sup> Kr	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>3</sup> H	4×10 <sup>-5</sup> 以下
<sup>14</sup> C	4×10 <sup>-5</sup> 以下
<sup>129</sup> I	4×10 <sup>-8</sup> 以下
<sup>131</sup> I	7×10 <sup>-9</sup> 以下
全α	4×10 <sup>-10</sup> 以下
全β(γ)	4×10 <sup>-9</sup> 以下
Pu(α)	4×10 <sup>-10</sup> 以下
<sup>106</sup> Ru	4×10 <sup>-9</sup> 以下
<sup>137</sup> Cs	4×10 <sup>-9</sup> 以下
<sup>90</sup> Sr	4×10 <sup>-10</sup> 以下

・<sup>106</sup>Ruは粒子状<sup>106</sup>Ru及び揮発性<sup>106</sup>Ruそれぞれに対する値を示した。

#### 4.気象観測結果(平成30年7月～平成30年9月)

##### ①風速

測定地点	測定月	風速(m/sec)		備考
		平均	最大	
地上10 m	7 月	3.2	8.6	
	8 月	3.3	9.7	
	9 月	2.9	10.4	
	第2四半期	3.1	10.4	
地上150 m	7 月	5.8	15.9	
	8 月	6.5	17.2	
	9 月	6.6	17.5	
	第2四半期	6.3	17.5	

- ・「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・地上10 m :風向風速計[超音波式](気象庁検定付)、連続測定(1時間値)
- ・地上150 m :ドップラーソーダ、連続測定(1時間値)

##### ②降水量

測定地点	測定月	降水量(mm)	備考
露場	7 月	157.0	
	8 月	330.0	
	9 月	156.5	
	第2四半期	643.5	

- ・「地上気象観測指針(平成14年 気象庁)」に基づく1時間値を用いて算出。
- ・雨雪量計[転倒ます型](気象庁検定付)

##### ③大気安定度

(単位:時間〔括弧内は%〕)

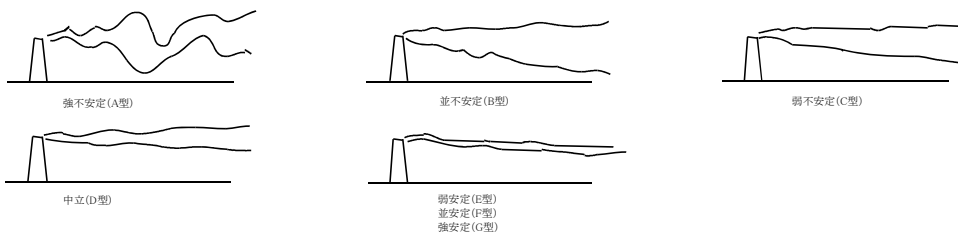
測定地点	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
		露場	7 月	13 (1.8)	24 (3.4)	45 (6.3)	6 (0.8)	71 (9.9)	19 (2.7)	484 (67.8)	14 (2.0)	6 (0.8)	
8 月	9 (1.2)		30 (4.0)	40 (5.4)	16 (2.2)	53 (7.1)	34 (4.6)	468 (62.9)	17 (2.3)	19 (2.6)	58 (7.8)	744 (100)	
9 月	4 (0.6)		26 (3.6)	47 (6.5)	19 (2.6)	63 (8.8)	16 (2.2)	369 (51.3)	21 (2.9)	22 (3.1)	133 (18.5)	720 (100)	
第2四半期	26 (1.2)		80 (3.7)	132 (6.1)	41 (1.9)	187 (8.6)	69 (3.2)	1321 (60.7)	52 (2.4)	47 (2.2)	223 (10.2)	2178 (100)	

- ・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。
- ・風向風速計[超音波式](気象庁検定付)、日射計[電気式](気象庁検定付)、放射収支計[熱電対式]

大気安定度分類表

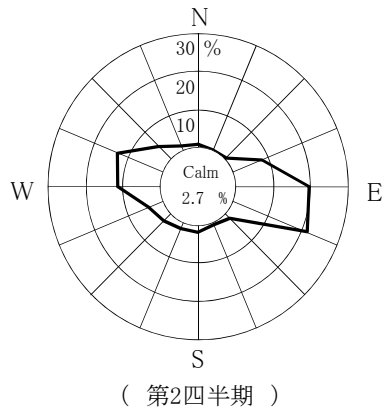
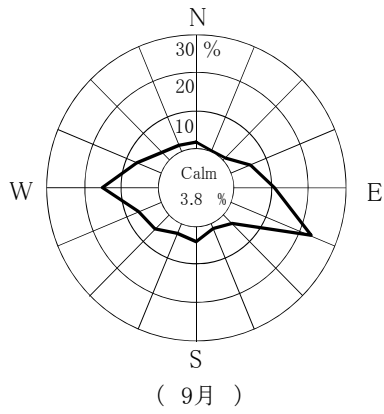
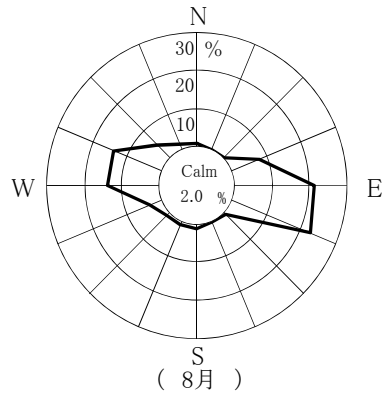
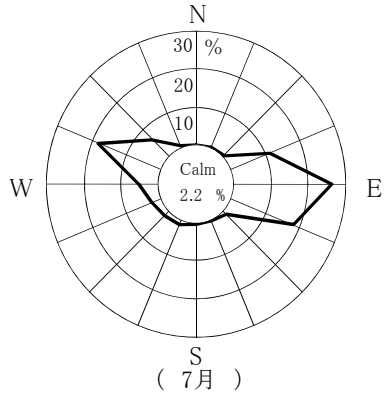
風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.02 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)

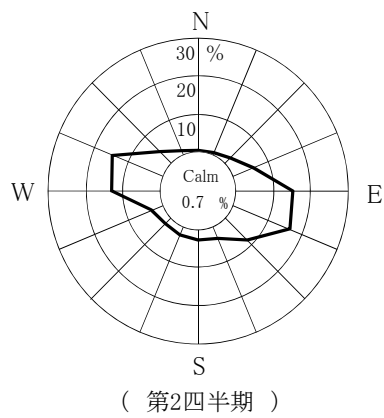
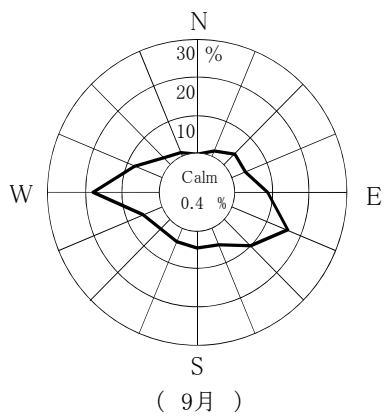
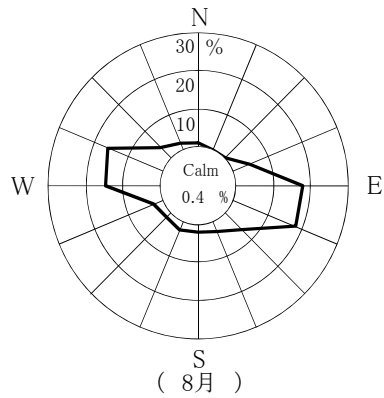
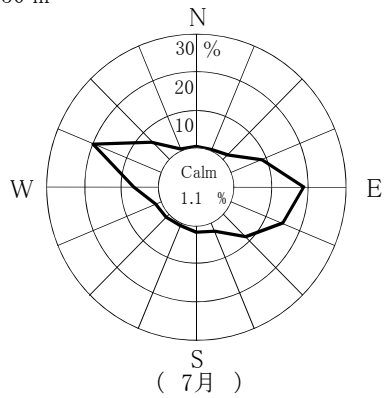


大気安定度と種の型との模式

④風向記図  
・地上10 m



・地上150 m



Calm: 風速0.4 m/sec以下

# 参 考 資 料

## 1. モニタリングポスト測定結果

① 空間放射線量率

## 2. 排気筒モニタ測定結果

① 全ガンマ線計数率(希ガス)

## 3. 放水口モニタ測定結果

① 全ガンマ線計数率

## 4. 気象観測結果

① 風速

② 降水量

③ 大気安定度

④ 風配図

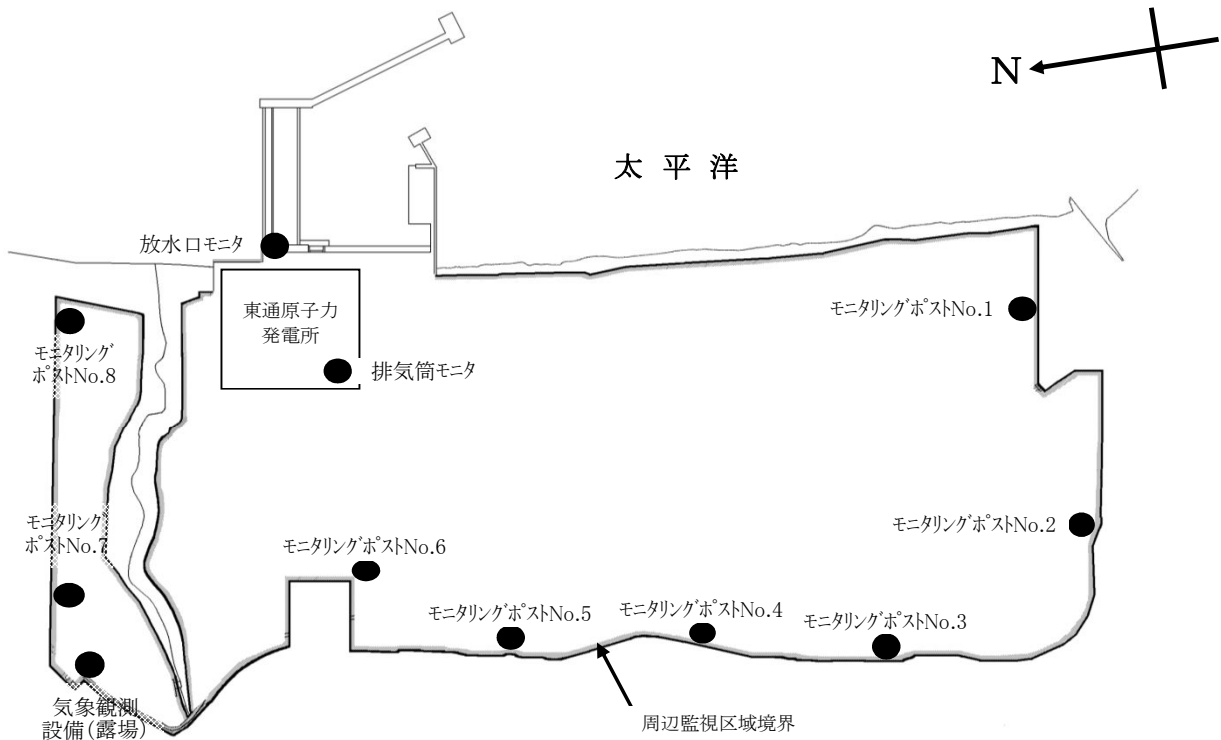


図 モニタリングポスト、排気筒モニタ、放水口モニタ及び気象観測設備配置図

1.モニタリングポスト測定結果 (平成30年7月～平成30年9月)

① 空間放射線量率

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
No.1 <sup>※1</sup>	7月	14	18	13	97	
	8月	15	46	12		
	9月	15	35	13		
	第2四半期	15	46	12		
No.2	7月	18	35	16	88	
	8月	19	50	16		
	9月	19	39	16		
	第2四半期	18	50	16		
No.3 <sup>※2</sup>	7月	16	17	15	94	
	8月	17	51	15		
	9月	17	37	14		
	第2四半期	17	51	14		
No.4 <sup>※3</sup>	7月	17	33	16	94	
	8月	18	48	16		
	9月	18	32	16		
	第2四半期	18	48	16		
No.5 <sup>※4</sup>	7月	15	16	14	108	
	8月	16	53	14		
	9月	17	40	14		
	第2四半期	16	53	14		
No.6	7月	15	33	14	101	
	8月	16	47	14		
	9月	17	36	14		
	第2四半期	16	47	14		
No.7 <sup>※5</sup>	7月	16	17	15	76	
	8月	17	48	14		
	9月	17	40	15		
	第2四半期	17	48	14		
No.8 <sup>※6</sup>	7月	12	26	10	92	
	8月	13	40	11		
	9月	12	18	11		
	第2四半期	13	40	10		

・2"φ×2"NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型恒温装置付) G(E)関数荷重演算方式

・測定値は1時間値。

・局舎屋根(地上約4m)設置

・測定値は、3MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・「過去最大値」は、平成16～29年度の測定値の最大値。

※1 モニタリングポストNo. 1は、機器更新に伴い平成30年7月3日～7月25日の期間で代替機器による測定を実施しており、測定値は以下のとおり。

7月 平均:20nGy/h、最大:40nGy/h、最小:17nGy/h

※2 モニタリングポストNo. 3は、機器更新に伴い平成30年7月1日～7月25日の期間で代替機器による測定を実施しており、測定値は以下のとおり。

7月 平均:23nGy/h、最大:40nGy/h、最小:22nGy/h

※3 モニタリングポストNo. 4は、機器更新に伴い平成30年9月19日～9月30日の期間で代替機器による測定を実施しており、測定値は以下のとおり。

9月 平均:23nGy/h、最大:38nGy/h、最小:21nGy/h

※4 モニタリングポストNo. 5は、機器更新に伴い平成30年7月1日～7月25日の期間で代替機器による測定を実施しており、測定値は以下のとおり。

7月 平均:19nGy/h、最大:32nGy/h、最小:17nGy/h

※5 モニタリングポストNo. 7は、機器更新に伴い平成30年7月1日～7月25日の期間で代替機器による測定を実施しており、測定値は以下のとおり。

7月 平均:22nGy/h、最大:35nGy/h、最小:20nGy/h

※6 モニタリングポストNo. 8は、機器更新に伴い平成30年9月7日～9月30日の期間で代替機器による測定を実施しており、測定値は以下のとおり。

9月 平均:19nGy/h、最大:51nGy/h、最小:15nGy/h



2.排気筒モニタ測定結果 (平成30年7月～平成30年9月)

① 全ガンマ線計数率(希ガス)

(単位: $s^{-1}$ )

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
排気筒モニタ	7月	3.6	4.0	3.2	4.4	
	8月	3.6	4.0	3.2		
	9月	3.6	4.0	3.2		
	第2四半期	3.6	4.0	3.2		

・2”φ×2”NaI(Tl)シンチレーション検出器

・測定値は10分値。

・「過去最大値」は、平成16～29年度の測定値の最大値。

3.放水口モニタ測定結果 (平成30年7月～平成30年9月)

① 全ガンマ線計数率

(単位: $min^{-1}$ )

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
放水口モニタ	7月	190	250	170	340	
	8月	190	330	170		
	9月	190	210	170		
	第2四半期	190	330	170		

・2”φ×2”NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型)

・測定値は10分値。

・「過去最大値」は、平成16～29年度の測定値の最大値。

4. 気象観測結果 (平成30年7月～平成30年9月)

① 風速

測定高さ	測定月	風速 (m/sec)		備考
		平均	最大	
地上10 m	7月	1.3	6.3	
	8月	1.5	6.0	
	9月	1.2	4.9	
	第2四半期	1.3	6.3	
地上100 m	7月	4.1	14.3	
	8月	5.5	15.5	
	9月	5.1	19.4	
	第2四半期	4.9	19.4	

- ・「地上気象観測指針(平成14年 気象庁)」に基づく1時間値。
- ・地上 10 m: 風向風速計[プロペラ型](気象庁検定付)
- ・地上100 m: ドップラーソーダ

② 降水量

測定地点	測定月	降水量(mm)	備考
露場	7月	187.5	
	8月	370.5	
	9月	157.5	
	第2四半期	715.5	

- ・「地上気象観測指針(平成14年 気象庁)」に基づく1時間値を用いて算出。
- ・雨雪量計[転倒升方式](気象庁検定付)

③ 大気安定度

(単位: 時間[括弧内は%])

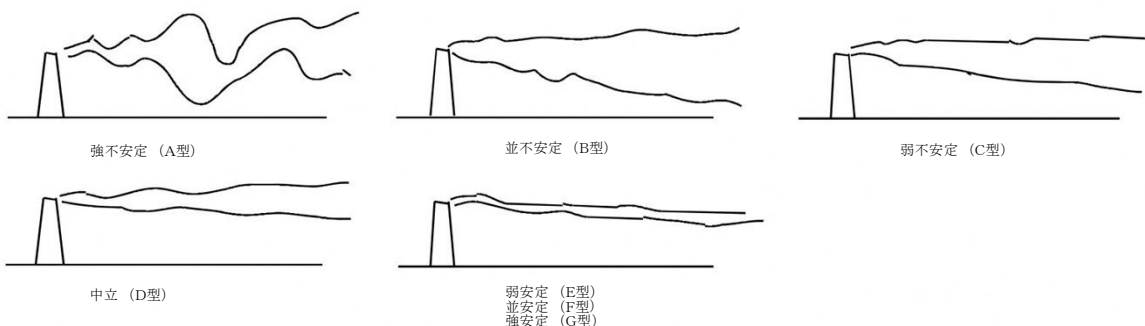
測定地点	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
		露場	7月	40 (5.4)	70 (9.4)	76 (10.2)	4 (0.5)	21 (2.8)	11 (1.5)	469 (63.0)	8 (1.1)	5 (0.7)	
8月	38 (5.1)		58 (7.8)	80 (10.8)	4 (0.5)	25 (3.4)	3 (0.4)	405 (54.4)	26 (3.5)	17 (2.3)	88 (11.8)	744 (100)	
9月	32 (4.4)		69 (9.6)	74 (10.3)	6 (0.8)	6 (0.8)	1 (0.1)	304 (42.2)	6 (0.8)	8 (1.1)	214 (29.7)	720 (100)	
第2 四半期	110 (5.0)		197 (8.9)	230 (10.4)	14 (0.6)	52 (2.4)	15 (0.7)	1178 (53.4)	40 (1.8)	30 (1.4)	342 (15.5)	2208 (100)	

- ・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。
- ・風向風速計[プロペラ型](気象庁検定付)、日射計[電気式](気象庁検定付)、放射収支計[風防型]

大気安定度分類表

風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.020 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

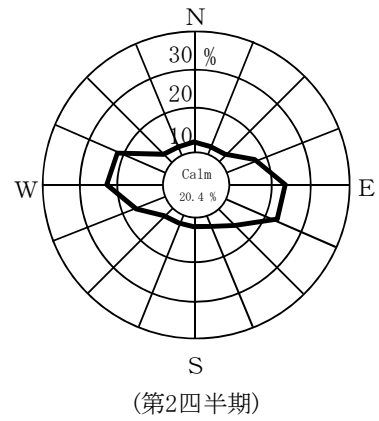
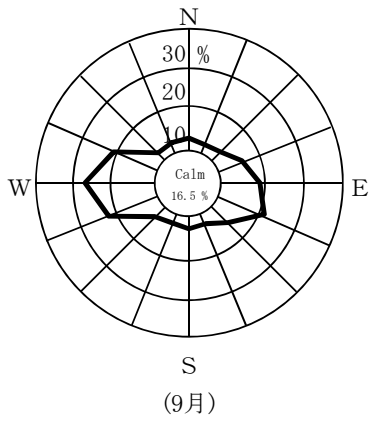
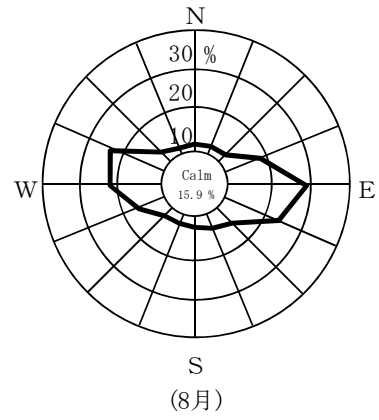
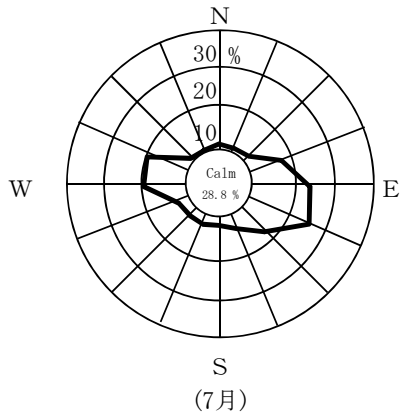
発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (平成13年3月 原子力安全委員会)



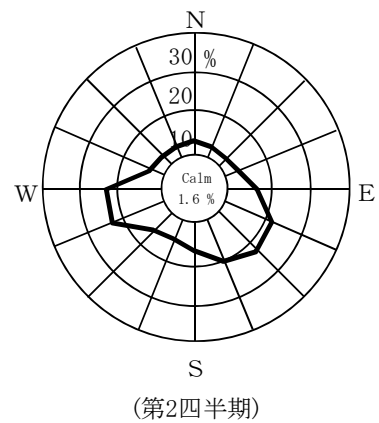
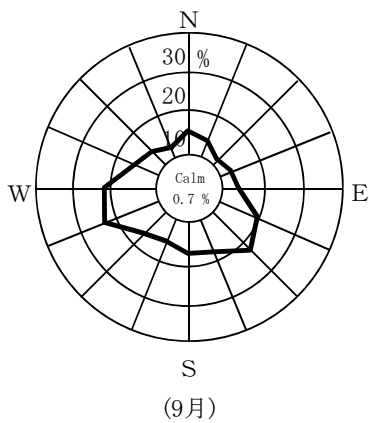
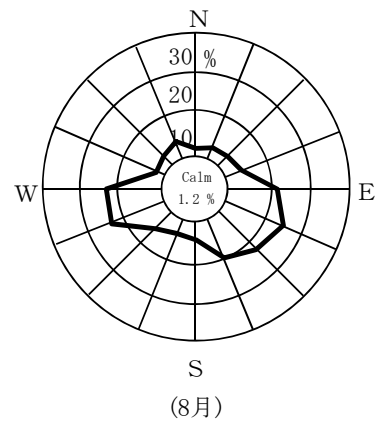
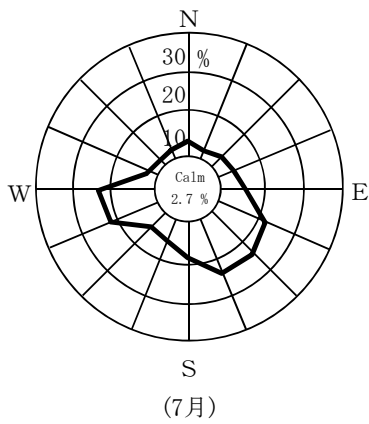
大気安定度と煙の型との模式

④ 風配図

・地上 10 m



・地上100 m



Calm: 風速0.4 m/sec以下